専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
32.基礎看護学概論 (看護の概念・看護理論)				鳥越千穂　看護師25年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	前期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	看護の本質を考え、人間が生活者であることを踏まえて看護の対象を知り、看護の役割と機能を理解する。また看護倫理を学び、看護の対象に関心を持つ重要性を理解する。				
科目目標	1.看護の概念を学ぶとともに、看護について考えて理解する。 2.看護の対象を生活者の視点から学び、看護の役割と機能を理解する。 3.看護倫理の意味を学び、看護師が看護の対象の権利を尊重する重要性を理解する。				
事前学修	1.自分の考える看護をもって講義に臨む 2.担当講師より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	看護とは何かを考える	1.看護の本質 2.対象中心の看護とは	鳥越
2	2			
3	2			
4	2		3.看護の定義 1)法律による定義 2)職能団体による定義	
5	2		4.看護の変遷	
6	2		5.看護理論家による定義 1)ナイチンゲール (1)看護覚書を読み解く　(2)三重の関心 2)ヘンダーソン (1)看護の独自の機能　(2)基本的ニード	
7	2			
8	2			
9	2	看護実践における重要な概念	1.人間とは何か 1)統合体としての人間 2)人間の共通性 3)人間の個別性	鳥越
10	2		2.健康とは何か 1)健康概念の歴史的変遷 2)看護における健康の概念	
11	2	看護の役割と機能	1看護の役割と機能 2.看護が機能する場 3.保健・医療・福祉の連携 1)チーム医療 2)地域包括ケアシステム	鳥越
12	2	看護における倫理と法	1.職業としての看護 2.看護制度	鳥越
13	2		3.看護と法 1)保健師助産師看護師法における看護師 2)保健師助産師看護師法の目的	
14	2		4.専門職としての倫理 5.医療をめぐる倫理	
15	2	科目試験		

使用テキスト:e新体系　看護学全書　基礎看護学❶　看護学概論　(メヂカルフレンド社)
看護覚え書　現代社
参考資料:

評価方法:筆記試験、演習での提出物・参加態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
33.基礎看護技術Ⅰ （人間関係の成立・感染予防の技術）				渡部恵利香　看護師8年 横澤亜希子　助産師・看護師25年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	前期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	看護技術を学ぶ意義を知り、人間関係を成立するための技術・態度と、看護の対象・看護実践する自分自身を守るための知識・技術を理解する				
科目目標	1.看護技術の特徴と質を決定する要因を理解する 2.人間のコミュニケーションは相互作用であることを知り、看護における人間関係を築くための技術・態度を理解する 3.感染成立の要件、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策を学び、感染予防における看護師の責務と役割を理解する				
事前学修	1.事前配布された事例を読み、対象をイメージする 2.担当講師より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	看護技術とは	1.看護技術の特徴 2.看護技術の質	渡部
2	2	コミュニケーションの技術	1.コミュニケーションとは 2.対人関係プロセスとしての看護	
3	2		3.看護におけるケアリングとコミュニケーション 4.看護理論とコミュニケーション	
4	2		5.看護とコミュニケーション 6.コミュニケーションのプロセスに影響する要因	
5	2		7.医療における信頼関係とコミュニケーション	
6	2	コミュニケーションの展開	1.プロセスレコードとは 2.プロセスレコードの記述方法	
7	2		3.ロールプレイングの実践 4.プロセスレコードによる振り返り	
8	2	感染と感染予防の基礎知識	1.感染の基礎知識 2.感染予防策の基礎知識	横澤
9	2		4.感染源への対策 1)医療器材の洗浄・滅菌　2)消毒法	
10	2		5.感染経路への対策 1)手洗い　2)個人防護用具の使用法	
11	2		5.感染経路への対策 3)滅菌物の取り扱い 4)隔離法および感染源の拡散防止	
12	2	感染予防の技術	1.スタンダードプリコーションの実際	
13	2	技術試験	1.感染予防の技術試験 手洗い・個人防護用具の装着	
14	2			
15	2	科目試験		

使用テキスト:e新体系　看護学全書　基礎看護学❷　基礎看護技術Ⅰ　（メヂカルフレンド社）
看護がみえる①、②　（メディックメディア）
参考資料

評価方法:筆記試験、技術試験、演習での提出物・参加態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
34.基礎看護技術Ⅱ (看護過程・臨床判断能力の概論)				渡部恵利香　看護師8年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	前期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの関連	2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	科学的根拠から実践するための看護過程、変化に気づいて状況を解釈して反応したのちに省察する臨床判断能力の基礎を学び、対象に必要な援助を考えることができる				
科目目標	1.看護過程の構成要素と関係性を理解し、対象の個別を尊重した援助に必要な思考過程を理解する 2.ヘンダーソンが考える看護論を理解する 3.臨床判断能力を考えるための臨床判断モデルを理解し、臨床モデルに沿って対話することで自身の思考をリフレクションする				
事前学修	1.テキストに書かれているヘンダーソンの看護理論について要約する 2.事前配布された事例を読み、対象を理解する				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	看護過程と看護技術	1.看護技術と看護過程 看護の科学性を支える看護過程	渡部
2	2	看護過程の基になる考え方と理論	1.看護過程とは 2.ヘンダーソンが考える看護の概念	渡部
3	2	看護過程の構成要素	1.アセスメント 1)情報収集 2)情報の分類・整理 3)情報の分析	渡部
4	2			
5	2		2.看護上の問題の特定 1)看護問題を仮説、統合	渡部
6	2		3.看護計画 1)目標設定 2)計画(具体策)の立案 3)実施 4)評価	渡部
7	2			
8	2	臨床判断能力と看護の現状	1.臨床判断が求められる背景 2.臨床判断とは	渡部
9	2	臨床判断モデルの活用	1.臨床判断の特徴 2.臨床判断モデルの過程とは	渡部
10	2		3.臨床判断モデルの過程の理解 1)背景 2)気づく 3)解釈する 4)反応する 5)省察	渡部
11	2			
12	2			
13	2		4.臨床判断モデルの評価 1)臨床判断モデルの体験 2)臨床判断モデルを用いての対話	渡部
14	2			
15	2	科目試験		

使用テキスト:e新体系　看護学全書　基礎看護学❷　基礎看護技術Ⅰ　(メヂカルフレンド社)
参考資料:看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践　(NOUVELLE HIROKAWA)

評価方法:筆記試験、演習での提出物・参加態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
35.基礎看護技術Ⅲ （療養生活環境調整・活動休養・安楽確保・ 清潔の技術）				岡村ひろみ　看護師33年 俣野詩織　看護師6年 佐々木保子　看護師7年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	前期	60時間・30回	2		講義・演習
DPとの関連	6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8. 看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	1.人間をとりまく環境の理解と、適切な療養生活環境を整える技術を修得する 2. 人間の基本的な姿勢・体位を理解し、対象が安楽な体位を保持できるための技術を修得する 3. 清潔・衣生活の効果と全身への影響を理解し、対象に合わせた技術を修得する				
科目目標	1. 人間の健康に関わる生活環境を理解できる 2. 対象者にとって適切な療養生活環境調整ができる 3. 人間の健康な生活にとっての活動と休息の意義を理解できる 4. 良質な睡眠をとるための援助方法が理解できる 5. 人間の基本的な体位を理解し、安楽に体位を保持する援助ができる 6. 安全安楽に体位変換および移動ができる 7. 清潔の意義と、対象に合わせた援助方法が理解できる 8. 衣生活の意義を理解し、患者の寝衣交換の援助ができる				
事前学修	担当教員の計画による				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	環境調整技術	1. 看護援助における環境の位置づけ 2. 生活環境の調整にかかわる基礎知識 1)プライバシーの調整　2)換気　3)温度湿度　4)騒音 5)採光	岡村
2	2	環境調整技術	3. 療養生活環境の調整 1)活動と休息・睡眠の基礎知識 2)病院のしくみ　3)病床の環境	岡村
3	2	環境調整技術	4. 生活環境のアセスメント 1)病床環境と環境計測 2)リネンの取り扱い方法	岡村
4	2	環境調整技術	5. 病床環境の調整に関する援助の実際 1)安全で快適なベッドメーキングの必要性と根拠 2)ベッドメーキングの必要物品と使用順序 3)マットレスパッドと下シーツを敷くポイント 4)ボディメカニクスを活用したベッドメーキングのポイント	岡村
5	2	環境調整技術	5)オープンベッドの作成方法(デモンストレーション) 6)オープンベッド作成の演習	岡村
6	2	環境調整技術	7)臥床患者のシーツ交換の方法(デモンストレーション) 8)臥床患者のシーツ交換の演習	岡村
7	2			
8	2	環境調整技術	9)病床環境整備	岡村
9	2	環境調整技術	6. 環境調整技術のまとめ	岡村
10	2	活動・休息の援助技術 安楽確保の技術	1. 安楽な体位の保持 1)基本的な体位 2)安楽に体位を保持する方法 2. ボディメカニクスの基本	佐々木

11	2	活動・休息の援助技術 安楽確保の技術	3. 体位変換 1)体位変換の目的、留意点、援助時の観察 2)ベッド上での水平移動(左右、上下) 3)仰臥位⇔側臥位　4)仰臥位⇔腹臥位 5)仰臥位⇔端坐位　6)端坐位⇔立位	佐々木
12	2	活動・休息の援助技術 安楽確保の技術		
13	2	活動・休息の援助技術 安楽確保の技術	4. 移動・移送援助 1)移動・移送の目的、移送用具の選択 2)移送用具の操作方法(車椅子・ストレッチャー) 3)移動・移送の方法(ベッド⇔車椅子⇔移送 ベッド⇔ストレッチャー⇔移送)	佐々木
14	2	活動・休息の援助技術 安楽確保の技術		
15	2	技術試験	環境調整技術 活動・休息の援助技術 安楽確保の技術	岡村 佐々木
16	2			
17	2	清潔・衣生活の援助技術	1. 清潔援助にかかわる基礎知識 1)清潔・温熱の意義 2)清潔援助の目的と適応 3)皮膚・粘膜の解剖生理 4)清潔援助方法に関する基礎知識 5)清潔援助の種類と特徴 6)入浴が身体に及ぼす影響	俣野
18	2	清潔・衣生活の援助技術	2. 衣生活にかかわる基礎知識 1)衣生活の意義 2)療養に適した衣服の条件 3. 整容援助にかかわる基礎知識 1)整容の意義 2)整容の援助と注意点	俣野
19	2	清潔・衣生活の援助技術	4. 手浴の援助 1)仰臥位で実施する手浴(デモンストレーション) 2)手浴の演習(仰臥位、坐位)	岡村
20	2	清潔・衣生活の援助技術	5. 足浴の援助 1)仰臥位で実施する足浴(デモンストレーション) 2)足浴の演習(仰臥位、坐位)	岡村
21	2	清潔・衣生活の援助技術	6. 清拭の援助の基本 1)物品の準備 2)清拭の基本(ウォッシュクロスの使い方) 3)顔の拭き方 4)上肢・腋窩・下肢の拭き方 5)胸部・腹部・背部の拭き方	俣野
22	2			
23	2	清潔・衣生活の援助技術	7. 寝衣交換の援助 1)臥床患者の寝衣交換の方法(デモンストレーション) 2)臥床患者の寝衣交換の演習	俣野
24	2	清潔・衣生活の援助技術	8. 全身清拭援助の実際 1)臥床患者の全身清拭 2)臥床患者の寝衣交換	俣野
25	2			
26	2	清潔・衣生活の援助技術	9. 洗髪援助の実際 1)臥床患者の洗髪援助	岡村
27	2	技術試験	清潔・衣生活の援助技術	俣野
28	2			
29	2			
30	2	科目試験		

使用テキスト:e新体系　看護学全書　基礎看護学❷　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学❸　基礎看護技術Ⅱ
(メヂカルフレンド社)
参考資料:看護がみえる①　(メディックメディア)

評価方法:筆記試験、技術試験、演習、レポート

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
36.基礎看護技術Ⅳ （食生活と栄養摂取・排泄の援助技術）				岡崎美穂　看護師25年	
年次	時期	時間数・回数	単位		授業形態
1	前期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの関連	6. その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる				
科目目的	1. 人間にとっての食事・栄養摂取の意義を理解し、対象が健康的かつ安全で快適な食行動をとるために必要な技術を修得する 2. 排泄の意義と排尿・排便のメカニズムを理解し、対象の状態に応じた技術を修得する				
科目目標	1. 食の意義と関連する要因を学び、適切な援助方法が理解できる 2. 経口摂取できる患者の食事介助ができる 3. 排泄の意義と形態機能を関連させてそのメカニズムを理解できる 4. 排泄の援助の必要性を判断する指標について理解できる 5. 患者の病態及びADLに応じた排泄援助の実際について理解する 6. 倫理的配慮と自然排泄への介助、便尿器、おむつの使用方法、便秘ケアと浣腸の方法を理解できる				
事前学修	担当教員の計画による				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	食生活と栄養摂取の援助技術	1. 人間にとっての食事・栄養摂取の意義 2. 食事・栄養摂取のしくみ 1)食欲のメカニズム　2)食物(栄養素)　3)食行動 4)嚥下のしくみ　5)消化吸収のしくみ 6)食事摂取基準と栄養状態のアセスメント	岡崎
2	2			
3	2	食生活と栄養摂取の援助技術	3. 患者への食事の援助 1)「食事」の援助が必要な対象者 2)医療施設で提供される食事 3)経口摂取できる患者の食事介助	岡崎
4	2	食生活と栄養摂取の援助技術	4. 食事援助の実際 自力で食行動がとれない人の経口からの食事の援助	岡崎
5	2	食生活と栄養摂取の援助技術	5. 口腔ケアの実際 自力で口腔ケアのできない人の援助	岡崎
6	2	排泄の援助技術	1. 排泄の基礎知識 1)人間にとっての排泄の意義 2)排泄のしくみ　(1)排便　(2)排尿	岡崎
7	2	排泄の援助技術	2. 排泄のアセスメント 1)排泄物の性状　2)排泄状況　3)排泄動作 4)排泄習慣についての情報収集 5)精神的要因　6)疾病・治療などの要因	岡崎
8	2	排泄の援助技術	3. 排泄の援助方法 1)自然な排便・排尿の援助　2)床上での排泄援助	岡崎
9	2	排泄の援助技術	4. 床上での排泄援助 1)便器のあて方　2)尿器のあて方	岡崎
10	2	排泄の援助技術	3)おむつによる排泄援助の適応、目的 4)陰部洗浄の目的	岡崎
11	2	排泄の援助技術	5)おむつによる排泄援助の実際 6)陰部洗浄の実際	岡崎
12	2	排泄の援助技術	5. 障害のある人の排泄援助 1)排便に障害がある人への援助 (1)便秘　(2)下痢　(3)便失禁 2)排尿に障害がある人への援助 (1)頻尿と尿失禁　(2)排尿困難と尿閉	岡崎
13	2	排泄の援助技術	6. 排泄に関する処置 1)浣腸(グリセリン浣腸)	岡崎
14	2	排泄の援助技術	2)浣腸の実際	岡崎
15	2	科目試験		

使用テキスト:e新体系　看護学全書　基礎看護学❸　基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)
参考資料:看護がみえる①②(メディックメディア)

評価方法:筆記試験、演習、レポート

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
37.基礎看護技術Ⅴ （バイタルサイン）				神林政子　看護師36年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	バイタルサインの意義を学び、測定方法を習得するとともに客観的データをアセスメントできる。 身体計測の意義と方法を学ぶ。				
科目目標	1.生体におけるバイタルサインの意義を理解する 2.バイタルサインを根拠に基づいて正確に測定する方法を習得する 3.測定した客観的データを基準値と比較してアセスメントする 4.標準的な身体計測の方法を理解する				
事前学修	1.担当講師より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	バイタルサインの意義	1.バイタルサインとは 2.バイタルサインの意味、目的	神林
2	2	バイタルサインの測定方法とアセスメント	1.意識状態の確認方法とアセスメント 2.体温の測定方法とアセスメント	神林
3	2		3.呼吸の測定方法とアセスメント	
4	2	バイタルサインの測定方法とアセスメント	4.脈拍の測定方法とアセスメント	神林
5	2		5.血圧の測定方法とアセスメント 1)血圧計と聴診器 2)血圧の測定方法と留意点	
6	2		5.血圧の測定方法とアセスメント 2)血圧の測定方法と留意点	
7	2			
8	2	身体計測の意義と測定方法	1.身体計測の意味・目的 2.身体計測の方法	神林
9	2	バイタルサインの測定	1.バイタルサイン測定の実際 意識レベルの確認・体温・脈拍・呼吸・血圧の測定 2.客観的データの記録方法	神林
10	2			
11	2			
12	2	技術試験	1.バイタルサイン測定の試験 意識レベルの確認・体温・脈拍・呼吸・血圧	神林
13	2			
14	2			
15	2	科目試験		

使用テキスト:e新体系　看護学全書　基礎看護学❷　基礎看護技術Ⅰ　（メヂカルフレンド社）
看護がみえる①、②　（メディックメディア）
参考資料

評価方法:筆記試験、技術試験、演習での提出物・参加態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
38.基礎看護技術Ⅵ （看護過程・臨床判断能力方法論、ヘルスアセスメント）				岡村ひろみ　看護師33年 横澤亜希子　助産師・看護師25年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの関連	2. 対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 4. 看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 6. その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8. 看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	1. 対象に必要な援助を、科学的根拠から実践するための手段・方法論の実際を修得する 2. 変化に気づき、状況をとらえ反応する臨床判断能力が向上する				
科目目標	1. 基礎看護技術Ⅱの学習内容を踏まえ、看護過程の展開ができる 2. 基本的ニーズの充足に向けた看護技術を、科学的根拠から実践するための手段・方法論を理解できる 3. 対象となる人の健康状態を系統的に情報収集して、査定するための基本となる看護技術を修得する 4. 対象の変化に気づき、解釈し、記録・報告（反応）することができる 5. 行為のリフレクション（省察）から臨床判断能力を高めることができる				
事前学修	1. 提示された事例の事前学習（発達段階・発達課題・病態） 2. ヘルスアセスメントに必要な形態機能の復習				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	事例展開	1. 腰椎圧迫骨折患者のアセスメント（情報の分析・解釈）	岡村
2	2		2. 腰椎圧迫骨折患者の関連図の作成・優先順位の決定	
3	2		3. 腰椎圧迫骨折患者の看護計画立案	
4	2		4. 腰椎圧迫骨折患者の援助計画表作成	
5	2		5. 腰椎圧迫骨折患者の援助実施後の経過記録・評価	
6	2	ヘルスアセスメント	1. 看護におけるヘルスアセスメント 2. フィジカルアセスメントとは（観察・記録・報告） 3. フィジカルアセスメントの基本技術 （問診・視診・触診・打診・聴診）	岡村
7	2		4. 代表的なフィジカルアセスメントの実際 1）呼吸器系のアセスメント（視診・触診・聴診）	岡村
8	2		2）循環器系のアセスメント（触診・聴診）	岡村
9	2		3）腹部・消化器系のアセスメント（聴診・触診・打診）	横澤
10	2		4）脳神経系のアセスメント（意識状態・不随意運動・各反射）	岡村
11	2		5）腰椎圧迫骨折患者の腹部・消化器系のフィジカルアセスメント　（観察・記録・報告）	横澤
12	2	卒業時到達看護技術	1. 腰椎圧迫骨折患者の看護計画に基づき、看護援助を実施する 2. 実施するためのフィジカルアセスメントや実施中の情報を記録し、報告する 3. 先輩と推論と判断について対話し、リフレクションを記述する	横澤
13	2			
14	2			
15	2	科目試験		

使用テキスト：e新体系　看護学全書　基礎看護学❸　基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）
参考資料：看護がみえる④（メディックメディア）
ヘンダーソンの基本看護に関する看護問題リスト（NOUVELLE　HIROKAWA）

評価方法：筆記試験、看護過程展開記録（アセスメント/全体像/看護計画/援助計画表/SOAP）、卒業時到達技術

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
39.基礎看護技術Ⅶ （治療・検査に伴う技術）				木村紗弥香　看護師16年　岡村ひろみ　看護師33年 星野めぐみ　看護師21年　神林　政子　看護師36年 佐々木保子　看護師7年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	75時間・38回	3		講義・演習
DPとの関連	1. すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 3. 主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 7. 切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8. 看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	診療の補助を安全・安楽に実践し、看護職として責務を果たすための技術を理解する				
科目目標	1. 救命救急処置の意義と目的、一次救命処置と二次救命処置の概要を理解する 2. 一次救命処置の方法を実践できる 3. 呼吸・循環を整える援助方法を理解する 4. 体温・循環調節の手段としての罨法の意義と方法を理解する 5. 創傷の治癒過程と創傷処置の方法を理解する 6. 薬物療法の目的と意義を理解し、安全で適切な与薬を行うための技術を理解する 7. 輸血の基本的事項を理解する 8. 検査における看護師の役割を理解する 9. 静脈血採血の方法を実践できる				
事前学修	担当教員の計画による				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	救命救急処置技術	1. 救命救急処置の意義と目的 2. 救急看護を受ける患者の特徴（中毒・熱中症・低体温症） 3. 救急蘇生法 1）心肺蘇生とは 2）心肺蘇生法（気道確保、胸骨圧迫、AED・除細動） 3）気道異物の除去	岡村
2	2			
3	2			
4	2	救命救急処置技術	一次救命処置の演習	上越総合病院看護師
5	2			
6	2	呼吸・循環を整える技術	1. 呼吸の意義としくみ 2. 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法	佐々木
7	2		3. 気道分泌物の排出の援助 1）体位ドレナージ 2）スクィージング、ハフィングほか	
8	2		3）一時的吸引 (1) 目的・根拠・アセスメント (2) 口腔・鼻腔・気管切開・気管挿管	
9	2		4）一時的吸引の実際	
10	2		4. 酸素吸入療法 1）酸素吸入療法の概要 2）酸素吸入療法の方法	
11	2		3）酸素吸入療法の実際	
12	2	呼吸・循環を整える技術	5. 人工呼吸療法 1）人工呼吸療法の概要 2）人工呼吸療法中の患者の援助 3）人工呼吸療法後の患者の援助	神林

13	2	呼吸・循環を整える技術	6. 末梢循環促進の援助 7. 体温管理・保温の援助 1)体温管理・保温の基礎知識 2)冷罨法 3)温罨法	神林
14	2		4)冷罨法・温罨法の実際	
15	2	創傷管理技術	1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷の観察・処置 1)ドレッシング材　2)包帯法 3. 止血法	神林
16	2		4. 包帯法・止血法の実際 1)巻軸包帯による包帯法 2)三角巾による包帯法 3)止血法	
17	2	検査に伴う看護技術	1. 検査に伴う看護の役割 2. 排せつ物の検査 1)尿の検査　2)便の検査　3)喀痰検査 3. 体液・組織の検査　1)血液検査 2)穿刺液の検査(腰椎・胸腔・腹腔・骨髄穿刺) 4. 生体検査　1)X線検査 2)CT検査　3)MRI検査　4)内視鏡検査　5)核医学検査	星野
18	2			
19	2			
20	2	与薬・輸血の技術 与薬に関する基礎知識	1. 薬物療法の意義・目的 2. 薬物に関する法律 3. 薬物療法における看護師の役割 4. 薬物療法を受ける患者の援助	岡村
21	2	与薬・輸血の技術 経口与薬法 外用薬の皮膚・粘膜適用	1. 経口与薬法 2. 外用薬 1)口腔内与薬法　2)直腸内与薬法　3)塗布・貼付 4)点眼・点入法　5)吸入法	
22	2	与薬・輸血の技術 経口与薬法 外用薬の皮膚・粘膜適用	3. 経口与薬法・外用薬の実際 1)経口与薬　2)口腔内与薬 3)直腸内与薬　4)塗布・貼付　5)吸入	
23	2			
24	2			
25	2	与薬・輸血の技術 注射法	1. 注射法の基礎知識 1)注射法の基礎知識、看護師の役割、患者への援助 2)注射に必要な器具と取扱い	
26	2	与薬・輸血の技術 注射法	2. 皮下注射・皮内注射・筋肉内注射 1)注射部位、アセスメント 2)注射方法	
27	2	与薬・輸血の技術 注射法	3)注射方法の演習	
28	2			
29	2	検査に伴う看護技術	静脈採血法の基礎知識と方法 1)採血の目的・種類・部位、留意事項 2)真空採血用ホルダーを用いた静脈血採血の方法	岡村
30	2	検査に伴う看護技術	静脈血採血法の実際(モデル使用)	
31	2			
32	2	与薬・輸血の技術 注射法	3. 静脈内注射 1)注射部位、アセスメント 2)注射方法	岡村
33	2	与薬・輸血の技術 注射法	4. 点滴静脈注射法 1)注射部位、使用する物品、アセスメント 2)注射方法	
34	2	与薬・輸血の技術 注射法	5. 静脈内注射の実際(モデル、翼状針使用) 6. 点滴静脈内注射の実際(モデル、留置針使用)	
35	2			

36	2	与薬・輸血の技術 注射法	7. 輸液ポンプ・シリンジポンプ 1)目的と適用 2)操作方法と注意点 3)中心静脈注射	岡村
37	2	与薬・輸血の技術 注射法	8. 輸血療法 1)輸血療法の基礎知識 2)輸血療法の方法	
38	1	科目試験		

使用テキスト:新体系　看護学全書　基礎看護学❸　基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)
参考資料:新体系　看護学全書　経過別成人看護学❶　急性期看護:クリティカルケア(メジカルフレンド社)
看護が見える②　(メディックメディア)

評価方法:筆記試験、演習、レポート

専門分野					
科　目　名				担　当　者	
40.生活と健康				俣野詩織　看護師6年　　古澤弘美　看護師27年 星野めぐみ　看護師21年　　神林政子　看護師36年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	前期	30時間・15回	1		講義・演習・GW
DPとの関連	2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	上越市の現状をデータを活用しながら、また活動を行いながら、生活の現状を理解し、地域生活と健康における看護の関連を学ぶ				
科目目標	・上越地域の人口動態を把握し、特徴を理解できる ・上越地域の環境(自然、産業、労働等)を把握し、特徴を理解できる ・上越地域の医療の現状を理解できる ・上越地域が抱える健康の問題について理解できる ・ボランティア活動を通して、互助を理解し地域住民やクラスメートと協力し課題を達成できる ・上越市の住民の生活現状を理解できる				
事前学修	看護師が働いている幅広い場所と活動内容を調べる。街中で人が倒れているとき自分はどうなるか、どうするかを考え記述する。その際、参考にした文献、ネットのテーマを記録しておくこと				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	地域を看護する看護師さんになろう	・地域包括ケアシステムの背景とその構造の理解 ・地域における看護師の就労状況とその役割 ・倒れている人がいる！その時あなたはどうするの？	俣野
2・3	2	上越地域の人口動態と課題	看護師が対象とする上越地域の人々の様子を調べる	古澤
	2	上越地域の人口動態と課題	調べた学修内容を発表する	古澤
4・5	2	上越地域の環境(自然・労働・住居)の状況と課題	看護師が対象とする上越地域の環境の様子を調べる	古澤
	2	上越地域の環境(自然・労働・住居)の状況と課題	調べた学修内容を発表する	古澤
6・7	2	上越地域の医療の状況と課題	看護師が働く上越地域の医療の様子を調べる	古澤
	2	上越地域の医療の状況と課題	調べた学修内容を発表する	古澤
8	2	あなたが看護する地域の生活と健康の現状をまとめてみよう	上越市での生活の現状と健康の様子をまとめる	俣野
9	2	上越市で展開されている事業について	・中間山地支え隊の背景を理解する ・ボランティア活動を行う地域の特徴を調べる・活動の確認	俣野
10	2	学修(ボランティア)活動	校外における活動	星野・神林
11	2	学修(ボランティア)活動	校外における活動	星野・神林
12	2	学修(ボランティア)活動	校外における活動	星野・神林
13	2	学修(ボランティア)活動	校外における活動	星野・神林
14	2	活動のまとめおよび地域生活と看護の関わりを学ぼう	学修内容をまとめ、発表する	俣野
15	2	終講試験		

使用テキスト:メディカ出版;在宅看護論①
参考資料:上越市健康増進計画・上越市都市計画マスタープラン・上越市市民の声アンケート

評価方法:筆記試験　レポート

専門分野					
科　目　名				担　当　者	
41.生活と地域包括ケア				竹内真奈美　看護師30年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	15時間・8回	1		講義・演習・GW
DPとの関連	3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	上越地域の地域包括ケアシステムとそこに従事する多職種を理解し、社会保障制度、介護保険サービスと日常生活の障害に応じた高齢者支援と看護の役割を学ぶ				
科目目標	・上越の地域包括ケアシステムを理解できる ・地域にある介護保険サービスの種類・目的、多職種の種類・役割を理解できる ・サービスを利用している高齢者とその生活の特徴を理解できる ・高齢者のケアにおける多職種連携・協働を理解できる ・地域包括ケア・高齢者ケアにおける看護師の役割を理解できる				
事前学修	上越地域の介護保険制度・サービスの種類・目的・内容をまとめる				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	上越市の地域包括ケアの現状	上越市の介護保険サービスと地域包括ケアのサービスを調べる 地域の職種の役割を調べて看護師とのつながりを考えよう	
2	2	在宅で生活する高齢者の自分をケアマネジメントしよう	在宅療養のあり方を考えてみよう 家族や現在の生活習慣から高齢になった自分を設定してみよう	
3	2	在宅で生活する高齢者の自分をケアマネジメントしよう	高齢になった自分の在宅生活を考えてケアプランを作成しよう	
4	2	在宅で生活する高齢者の自分をケアマネジメントしよう	高齢になった自分の在宅生活を考えてケアプランを作成しよう	
5	2	施設で生活する高齢者の自分をケアマネジメントしよう	施設療養のあり方を考えてみよう 施設の職種と看護のつながりを考えよう 高齢になった自分の施設生活を考えてケアプランを作成しよう	
6	2	施設で生活する高齢者の自分をケアマネジメントしよう	高齢になった自分の施設生活を考えてケアプランを作成しよう	
7	2	高齢者の療養の場における支援を学ぼう	作成したケアプランを発表しよう 異なる療養の場に共通する高齢者の支援を理解する	
8	2	終講試験		

使用テキスト:医学書院;保健医療福祉論　メディカ出版;在宅看護論①、②
参考資料:基礎看護学実習Ⅰ　看護の将来ビジョン　上越市高齢者介護保険事業計画/高齢者福祉計画

評価方法:試験

専門分野					
科　目　名				担　当　者	
42.地域・在宅看護概論				俣野詩織　看護師6年　　古澤弘美　看護師27年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	15時間・8回	1		講義・演習・GW
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断および行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲を持って、主体的に学習に取り組むことができる 10. 国際情勢、地域の動向に関心を持つことができる				
科目目的	対象者の背景と基本理念、継続看護、在宅療養を支える社会資源を理解し、地域で生活する人々を健康という側面から看護することを学ぶ				
科目目標	・在宅看護が必要とされる背景と役割が理解できる ・在宅看護の対象と状態が理解できる ・在宅療養を支える地域包括ケアシステムが理解できる ・在宅療養を支える制度およびリスクマネジメントを理解する ・訪問看護の機能と役割が理解できる ・在宅看護の倫理および在宅療養者の権利保障を理解できる				
事前学修	既習学修である生活と健康・保健医療福祉論・老年看護学の講義内容を読み解いておく				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	在宅看護の概念	1在宅看護の背景 2在宅看護の基盤 3地域療養を支える在宅看護の役割 4在宅看護を展開するための基本理念	俣野
2	2	在宅療養者と家族の支援	1在宅看護の対象者 2在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 3在宅療養の場における家族のとらえ方 4在宅療養者の家族への看護	俣野
3	2	地域包括ケアシステムにおける在宅看護	1地域包括ケアシステム 2療養の場の移行に伴う看護 3地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 4在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	俣野
4	2	地域療養を支える制度	1社会資源の活用 2医療保険制度 3後期高齢者医療制度 4介護保険制度 5生活保護制度 6障害者に関連する法律 7難病法 8子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 9在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 10高齢者施策	俣野
4	2	在宅療養を支える訪問看護	1訪問看護の特徴 2在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3訪問看護サービスの展開 4訪問看護の記録	俣野
6	2	在宅看護における安全と健康危機管理	1在宅における危機管理・救急に電話する時 2日常生活における安全管理 3災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	古澤
7	2	在宅看護における倫理	1看護倫理の概要と活用 2在宅看護特有の倫理問題/対象者の権利保障	古澤
8	1	科目試験		

使用テキスト　：メディカ出版;在宅看護論①　国民衛生の動向

評価方法　：　筆記試験

専門分野					
科 目 名				担 当 者	
43.地域・在宅生活を整える技術				俣野詩織　看護師6年　　井澗由加理　看護師26年 林　智子　看護師32年 秦　五津子　上越市認知症サポーター養成講座講師	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳（領域横断がある場合）	講義形態
2	前期	30時間・15回	1		講義・演習・GW
DPとの関連	1すべての対象の生命が守られることを判断および行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 7切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8看護に興味・関心があり、成長したいという意欲を持って、主体的に学習に取り組むことができる 10 国際情勢、地域の動向に関心を持つことができる				
科目目的	あらゆる発達段階、健康状態の在宅生活において、生活の質を保てるように対象者・家族の生活様式や価値観を理解し、日常生活援助を演習をすることを学ぶ				
科目目標	1日常生活を中心とした在宅看護援助の基本が理解できる 2 在宅療養における一般的な看護技術を演習する				
事前学修	既習学修である基礎看護学で学修した日常生活援助技術をまとめる 老年看護学で学修した認知症とそのケアについて復習する				

回数	時間	講義内容		教授方法
1	2	訪問看護技術	1家庭訪問・初回訪問 2在宅療養における看護過程の展開技術	俣野
2	2	在宅療養環境・住まい	在宅環境整備・感染予防・家族支援・多職種連携	井澗
3	2	コミュニケーション	コミュニケーションの基本・コミュニケーション障害と支援	
4	2	認知機能のアセスメントと援助技術	認知症サポーターになろう：認知症サポーター養成講座開催	サポーター養成講座講師
5	2	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの基本・フィジカルアセスメントの技術	井澗
6	2	呼吸に関する援助技術	呼吸ケアの特徴・アセスメント・ケアの実際・家族支援・多職種連携	井澗
7	2	栄養・食生活に関する技術	栄養・食生活に関する特徴・アセスメント・ケアの実際・家族支援・多職種連携	井澗
8	2	排泄に関する援助技術	排泄に関する特徴・アセスメント・ケアの実際・家族支援・多職種連携	井澗
9	2	肢位の保持と移動 生活リハビリテーション	1在宅における移動とその能力のアセスメント・家族支援・多職種連携 2生活リハビリテーション	俣野
10	2	移動移乗に関する技術	移動動作に困難な療養者の歩行介助技術	俣野
11	2	清潔と更衣に関する援助技術	清潔・更衣における特徴・アセスメント・ケアの実際・家族支援・多職種連携	俣野
12 13	4	排泄・清潔援助技術	排泄動作が困難な療養者ポータブルトイレ排泄援助 入浴動作が困難な療養者入浴介助の援助 更衣動作な困難な療養者の衣服交換援助	俣野
14	2	褥瘡ケア	1）褥瘡とは2）褥瘡の予防方法 3）褥瘡の発生原因のアセスメント 4）褥瘡創部のアセスメント 5）褥瘡の治療、ケアのポイント 6）褥瘡予防、褥瘡改善のための看護計画の立案	林
15	2	科目試験		試験

使用テキスト：メディカ出版；在宅看護論①②　　参考テキスト；メディックメディア；看護が見える
認知症サポーター養成講座：上越市高齢者支援課介護指導係主催

評価方法　：　筆記試験

専門分野					
科　目　名				担　当　者	
44.地域・在宅医療管理技術				俣野詩織　看護師8年 星野めぐみ　看護師21年 田村正明　看護師42年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳（領域横断がある場合のみ）	授業形態
3	前期	30時間・15回	1		講義・演習・GW
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断および行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲を持って、主体的に学習に取り組むことができる 10.国際情勢、地域の動向に関心を持つことができる				
科目目的	あらゆる発達段階、健康状態の在宅生活において、安全安楽安心な在宅生活を送ることができるように、原理原則に基づいた医療的ケアを学ぶ				
科目目的	医療的ケアを中心とした在宅看護技術の基本が理解できる 在宅療養における一般的な看護技術を演習する				
事前学修	既習学修である基礎看護学で学修した日常生活援助技術をまとめる 成人老年看護学で学修したケアについて復習する				

回数	時間	講義内容		担当者
1	2	医療的ケアの原則と薬物管理	1　在宅における医療的ケアの意義・目的・その他・ 2　薬物療法 3　インスリン自己注射の援助	俣野
2	2	在宅中心静脈栄養法・ 経管栄養法の援助技術	1　在宅中心静脈栄養法および経鼻経管栄養法 2　栄養法に関する看護援助と合併症予防 3　生活の工夫（介護者に向けた指導）	俣野
3	2	呼吸機能に障害のある療養者の看護技術	在宅における排痰ケア・気管カニューレのケア	俣野
4	2	非侵襲的陽圧換気療法・在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法の援助技術	1　非侵襲的陽圧換気療法 2　在宅酸素療法（HOT） 3　在宅人工呼吸器療法の看護 目的、適応基準、使用機器の種類と管理法・看護・社会資源	俣野
5	2	在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気療法の演習	在宅医療機器メーカーによる医療機器の体験学習	帝人企業看護師
6	2	排泄機能に障害のある療養者の看護技術	在宅におけるストーマ・膀胱留置カテーテルの援助技術	俣野
7	2	8．難病患者の在宅看護	1)在宅における難病患者の理解 難病の定義、難病対策要綱、難病患者の課題（ALS療養者事例）	俣野
8	2		3)在宅で療養する難病患者の看護 実際の療養者の状態と看護方法 在宅ケアチームの情報交換・連携等	俣野
9	2	9．統合失調症の療養者に対する在宅看護	統合失調症の療養者の在宅看護の事例展開	俣野
10	2	10．在宅における 終末期（がん）の看護 (外来がん治療の支援と疼痛緩和ケア）	1．在宅における終末期（がん）看護の特徴（定義、条件） 2．在宅ターミナルにおける症状コントロール 3．在宅終末期看護の展開および疼痛緩和 1)在宅移行時の看護　2)終末期前期の看護 3)終末期中期の看護　4)終末期後期の看護 （臨死期の観察、看取りケア、死の準備教育、グリーフケア） 4．家族支援の基本姿勢 5．在宅ターミナルにおけるチームケア	星野
11	2			
12	2	腹膜透析患者の在宅看護	1）CAPDとは　2）CAPD時の生活の特徴と看護	田村

13	2	11. 在宅で療養する 子どもへの看護	1. 在宅ケアを必要とする小児の特徴 1)在宅療養小児の特徴 2)在宅身体障害児の身体症状 2. 在宅で療養生活する小児に対する基本的な看護 1)療養者と家族の発達のアセスメント 2)発達に応じた対応 3)合併症の予防 3. 家族支援のポイント 4. 在宅療養児をめぐる社会資源、ネットワークづくり 1)社会資源の活用 2)地域ネットワーク 3)現状の問題点	俣野
14	2			俣野
15	2	科目試験		試験
使用テキスト: メディカ出版; 在宅看護論①② メディックメディア;看護が見える 参考テキスト: 高木永子監修 「看護過程に沿った対症看護」 学研				
評価方法 : 筆記試験				

専門分野					
科　目　名				担　当　者	
45.地域・在宅看護過程				俣野詩織　看護師6年　　宮越陽子　保健師・看護師17年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳（(領域横断がある場合のみ）	授業形態
3	前期	30時間・15回	1		講義・演習・GW
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断および行動の基本とし人の生死に真摯に向き合うことができる 2.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲を持って、主体的に学習に取り組むことができる 10.国際情勢、地域の動向に関心を持つことができる					
科目目的	在宅療養者の看護の展開方法がわかり、実践の視点を学ぶ				
科目目標	1　生活の場を理解した予防的視点を含めた看護の展開ができる 2　在宅療養における多職種連携の看護過程を展開できる 3　意思決定の方針を理解し、QOLの向上及び健康の保持・増進に向けたケアをロールプレイできる				
事前学修	基礎看護学・成人老年看護学における看護過程の学びをまとめる				

回数	時間	講義内容		担当者
1	2	在宅看護過程の展開の特徴	1－1. 在宅看護過程の展開の特徴 1－2. 在宅看護におけるアセスメントの視点 1)在宅看護に関係する書類 2)情報収集の方法、情報源、注意点 3)アセスメントの視点 4)家族負担に関するアセスメント方法	俣野・宮越
2	2	紙上事例による看護過程の実際	2. 紙上事例の看護展開 1)療養者の情報の整理・解釈・分析	俣野・宮越
3	2	紙上事例による看護過程の実際	2. 紙上事例の看護展開 1)療養者・家族の情報の整理・解釈・分析 2)全体像の描写と看護問題の明確化	俣野・宮越
4	2	紙上事例による看護過程の実際	1在宅における看護計画 1)セルフケア能力を引き出す計画 2)ケアマネジメントと訪問看護 3)在宅看護における家族支援 （介入の特徴、目的、基本姿勢、実際） 2. 紙上事例の看護展開 1)療養者・家族の情報の整理・解釈・分析 2)全体像の描写と看護問題の明確化　3. 訪問看護のロールプレイ　1) 援助場面の援助計画 2)実習室にて場面設定とロールプレイ	俣野・宮越
5	2			俣野・宮越
6	2			俣野・宮越
7	2			俣野・宮越
8	2			俣野・宮越
9	2			俣野・宮越
10	2			俣野・宮越
11	2			俣野・宮越
12	2			俣野・宮越
13	2			俣野・宮越
14	2	在宅看護過程のまとめ	まとめ発表 グループの中での相違とそれぞれの考えを発表 振り返り	俣野・宮越
15		科目試験		

使用テキスト　：　メディカ出版;在宅看護論①②

評価方法　：　筆記試験（50）　看護過程演習（50）

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
46.精神看護学概論				鳥越千穂　看護師25年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1年	後期	30時間・15回	1単位		講義
DPとの関連	5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつでどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて 判断できる 10.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる				
科目目的	地域で暮らす人々の心の健康を保持・増進するために必要な要因を理解する				
科目目標	1.精神的(こころの)健康とは何か説明できる 2.精神的(こころの)健康に影響を及ぼす要因について理解できる 3.精神保健の歴史、現状に関心をもつことができる				
事前学修	講義の前にテキストを熟読しておくこと				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	精神(こころ)の健康	1.精神保健とは 2.こころの健康とは	鳥越
2	2	精神(こころ)の捉え方	脳の構造と機能	鳥越
3	2			鳥越
4	2		精神(心)の構造と働き フロイトの構造論　自我の防衛機制	鳥越
5	2		精神(心)の発達 フロイトの発達論　エリクソンの発達理論	鳥越
6	2	精神の危機状況と精神保健	ライフサイクル・ライフイベントと危機(1)	鳥越
7	2			鳥越
8	2		1.ストレスとコーピング 2.精神の健康とセルフマネジメント	鳥越
9	2	現代社会と精神保健	社会構造の変化と社会病理	鳥越
10	2		暮らしの場と精神保健	鳥越
11	2			鳥越
12	2	精神保健医療の歴史と現在の姿	精神保健医療の歴史と変遷	鳥越
13	2		日本の精神医療政策と方向性	鳥越
14	2	精神に障がいを持つ人の理解	当事者からの体験を聴く	鳥越
15	2	科目試験		

使用テキスト:　e精神看護学概論/精神保健　精神看護学①　メヂカルフレンド社
参考資料:

評価方法:　筆記試験

専門分野					
科 目 名				担 当 講 師	
47.精神看護学方法論Ⅰ				佐藤 暁 看護師12年 工藤朝木 作業療法士 澤中政道 看護師35年 村山裕子 看護師 中村有宏 看護師 五十嵐恵美子 看護師33年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2年	前期	30時間・15回	1単位		講義
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・スピリチュアルな側面から捉えることができる				
科目目的	精神障がいを持つ人への看護の基本について理解する				
科目目標	1.精神障がい者が体験する症状・状態像、回復を促進するための治療と看護が理解できる 2.リエゾン精神看護の役割が理解できる 3.医療観察法による医療の理念と方法が理解できる				
事前学修	病態生理治療学Ⅵ(精神疾患)				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	精神に障がいをもつ人の看護	統合失調症	佐藤 暁
2	2	精神に障がいをもつ人の看護	統合失調症	佐藤 暁
3	2	精神に障がいをもつ人の看護	気分障害	佐藤 暁
4	2	精神に障がいをもつ人の看護	気分障害	佐藤 暁
5	2	精神に障がいをもつ人の看護	精神作用物質使用による精神行動の障害	村山裕子
6	2	精神に障がいをもつ人の看護	精神作用物質使用による精神行動の障害	村山裕子
7	2	精神に障がいをもつ人の看護	神経障害性障害 ストレス関連障害 身体表現性障害	五十嵐恵美子
8	2	精神に障がいをもつ人の看護	生理的障害 パーソナリティ障害	五十嵐恵美子
9	2	心理的発達の障害のある人の看護	小児期・青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	五十嵐恵美子
10	2	精神科看護におけ安全管理と人権擁護	病棟の環境 事故・暴力防止 入院患者の処遇と権利	澤中政道
11	2	精神疾患の主な治療法と看護	薬物療法 電気けいれん療法	澤中政道
12	2	精神疾患の主な治療法と看護	リハビリテーション	工藤朝木
13	2	地域移行支援とリエゾン精神看護	長期入院患者の地域移行支援 リエゾン精神看護 活動の実際	五十嵐恵美子
14	2	司法精神医療	心神喪失者等医療観察法の概要 指定精神医療機関における医療と看護の実際	中村有宏
15	2	科目試験		

使用テキスト: e精神に障がいをもつ人の看護 精神看護学② メヂカルフレンド社
参考資料:

評価方法: 筆記試験

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
48.精神看護学方法論Ⅱ				鳥越千穂　看護師25年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	15時間・8回	1		講義・演習
DPとの関連	1.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、ともに生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる。 4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・スピリチュアルな側面から捉えることができる				
科目目的	精神科看護の対象となる人への看護実践の基本について理解する				
科目目標	1.精神に障がいを持つ人との「患者－看護師」関係のありかたを理解する 2.精神に障がいを持つ人との治療的なコミュニケーションと多様な方法を理解する。 3.精神に障がいを持つ人との関わりの振り返りの重要性と方法を理解する。				
事前学修	これまでの受講した精神看護学の授業内容を充分復習しておく				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	精神の働きと精神症状	精神障害を持つ人の抱える症状	鳥越
2	2	精神に障がいのある人との関わり方	患者－看護師関係の目指すこと	鳥越
3	2	精神に障害がある人とのコミュニケーション	精神に障がいを持つ人とのコミュニケーションの特徴	鳥越
4	2	精神に障害がある人とのコミュニケーション	コミュニケーション技法 カウンセリングの技法	鳥越
5	2	精神障がいを持つ人との関係の振り返り	プロセスレコードの意義 プロセスレコードの書き方と振り返りの方法	鳥越
6	2	心理社会的な支援	SSTの理論と実際	鳥越
7	2	心理社会的な支援	SSTの理論と実際	鳥越
8	2	科目試験		

使用テキスト:　e精神に障がいをもつ人の看護　精神看護学②　メヂカルフレンド社
参考資料:

評価方法:　筆記試験

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
49.精神看護学方法論Ⅲ				鳥越千穂　看護師25年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2年次	後期	15時間・8回	1		講義・演習
DPとの関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる				
科目目的	精神に障がいがある人に対する看護過程の展開方法を理解する				
科目目標	1.対象の健康レベルをアセスメントする技術と必要な看護ケアを理解する 2.オレム・アンダーウッド理論に基づきセルフケアの援助について説明できる				
事前学修	これまでの受講した精神看護学の授業内容を充分復習しておく				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	精神障がいを持つ人への看護援助の展開	精神看護におけるアセスメント 対象を理解するための考え方 － ICF	鳥越
2	2	精神障がいを持つ人への看護援助の展開	オレムのセルフケア理論 オレム・アンダーウッドモデル	鳥越
3	2	精神障がいを持つ人への看護援助の展開	精神看護実践におけるセルフケア理論の適応	鳥越
4	2	精神障がいを持つ人への看護援助の展開	精神状態のアセスメント	鳥越
5	2	看護過程の展開	紙上演習 統合失調症を持つ人の看護	鳥越
6	2	看護過程の展開	紙上演習 統合失調症を持つ人の看護	鳥越
7	2	看護過程の展開	まとめ 精神看護実践(実習)に向けて	鳥越
8	2	科目試験		鳥越

使用テキスト:　e精神に障がいをもつ人の看護　精神看護学②　メヂカルフレンド社
参考資料:

評価方法:　筆記試験

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
50.成人看護学概論				星野めぐみ　看護師21年 神林政子　看護師36年 布施明子　保健師25年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30・15	1		講義
DPとの関連	3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 4.地域で暮ら人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	成人期の人々の発達課題や健康上のニーズ、健康問題について理解し、生活をする成人のQOLの維持・向上に向け、各健康レベルに応じた看護について理解する				
科目目標	1.成人看護の対象が理解できる 2.成人各期の特徴と健康問題が理解できる 3.成人の健康問題に対応した看護の基本が理解できる 4.成人の健康レベルに対応した看護が理解できる				
事前学修	授業内容に合わせて教科書等を読む。授業時に提示された事前学習課題を行うこと。				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	成人看護の対象の理解	「成人」の定義 成人期にある人の理解 各期の特徴と健康問題（青年期、壮年期、向老期）	星野
2	2	健康障害を持つ成人への看護の基本的視点	健康生活を支える人間関係 健康の危機状況への適応 成人の健康学習支援 患者・家族の意思決定を支える	星野
3	2			星野
4	2	成人の健康状態に応じた看護	成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策	星野
5	2		健康の保持増進のための支援 　健康づくり対策、生活習慣病対策、疾患対策、労働者の健康対策、感染症、メンタルヘルスなど	上越市役所保健師
6	2			上越市役所保健師
7	2		急激な身体侵襲を受け健康の危機状況を迎える成人の看護 　急性期とは　急性状態を引き起こす原因と患者・家族の特徴 　急性期にある成人患者・家族の治療と看護	星野
8	2			星野
9	2		健康生活の継続への支援を必要とする成人の看護 　慢性期にある成人の健康問題をめぐる状況 　慢性期にある成人への治療と看護	星野
10	2			星野
11	2		生活の再構築を必要とする成人への看護 　リハビリテーションを必要とする成人の健康問題をめぐる状況 　リハビリテーションと看護	神林
12	2			神林
13	2		人生の最期を迎える人の看護 　終末期にある成人の健康状態をめぐる状況 　最後まで自分らしく生きることを支える看護	星野
14	2			星野
15	2	科目試験		

使用テキスト:e新体系 看護学全書 専門分野Ⅱ 成人看護学　成人看護学概論／成人保健　メジカルフレンド社
参考資料:国民衛生の動向　厚生統計協会

評価方法:筆記試験、事前学修、授業への参加態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
51.生命の危機状態にある成人の看護				渡部恵利香　看護師8年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30・15	1		講義・演習
DPとの関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	成人期にある対象が急性疾患によって生命の危機状態にある健康障害の症状が身体的・精神的・社会的に及ぼす影響を理解する。また、回復過程に応じた生活行動の支援を学び、看護過程を展開することで実践的な思考を学修する。				
科目目標	1.呼吸機能に健康障害を持つ成人期の対象が、急性増悪により生命の危機状態となっている原因・誘因を理解し、観察の視点を明確にする 2.成人期にある対象が、循環機能の急性疾患により、健康障害が起こり生命の危機状態となっている原因・誘因を理解し、観察の視点を明確にする 3.呼吸機能・循環機能に急激な健康障害がある成人期の事例を看護過程展開し、急性期の看護を理解する				
事前学修	1.呼吸・循環器の構造と機能について復習する 2.成人看護学概論の急性期看護について復習する 3.担当講師より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	急性期看護の特徴	1.模擬患者による急性期にある対象の理解 2.臨床判断能力の理解	渡部
2	2	呼吸機能障害を持つ対象の看護	1.代表的な呼吸機能障害を持った対象の理解 1)肺気腫とCO_2ナルコーシスの関連を集団思考 2)肺気腫の病態関連図について理解の共有	
3	2			
4	2		2.呼吸機能障害を持つ患者の急性増悪に対するアセスメント 1)アセスメントを集団思考 2)理解の共有	
5	2			
6	2		3.呼吸機能障害を持ち急性増悪にある患者への生活行動に対する援助	
7	2	循環機能障害を持つ対象の看護	1.代表的な循環機能障害を持った対象の理解 1)心不全と呼吸困難の関連を集団思考 2)心不全と浮腫の関連を集団思考 3)心不全の病態関連図について理解の共有 4)虚血性心疾患と心拍出量の関連を集団思考 5)虚血性心疾患の病態関連図について理解の共有	
8	2			
9	2			
10	2			
11	2			
12	2		2.循環機能の急性疾患にある患者のアセスメント 1)アセスメントを集団思考 2)理解の共有	
13	2			
14	2		2.循環機能の急性疾患にある患者への生活行動に対する援助	
15	2	科目試験		

使用テキスト:新体系　看護学全書　専門分野Ⅱ　成人看護学　呼吸器　メヂカルフレンド社
新体系　看護学全書　専門分野Ⅱ　成人看護学　循環器　メヂカルフレンド社
参考資料:人体の構造と機能で使用したテキスト・資料

評価方法:筆記試験、演習での提出物(アセスメント・リフレクションシート等)・参加態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
52.生涯にわたり健康障害のコントロールを必要とする成人の看護Ⅰ				渡部恵利香　看護師7年　　星野めぐみ　看護師21年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30・15	1		講義　演習
DPとの関連	3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 4.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	成人期における人間の健康機能障害(腎機能、栄養・代謝機能)を通し、成人が障害を抱えながら生活を再構築していくための看護師の役割および、看護過程展開に必要な実践的な思考のプロセスを学修する。				
科目目標	1.腎機能、栄養・代謝機能障害による症状や治療が、患者の日常生活に及ぼする影響について理解することができる 2.腎機能、栄養・代謝機能に障害をもつ患者のセルフマネジメントを支援し、その人らしい生活を再構築するための看護方法を理解することができる				
事前学修	1.腎機能、栄養・代謝機能に関連する解剖・生理学、病態生理について復習をする 2.成人看護学概論の内容を復習する 3.その他、担当者より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	慢性期看護の特徴	病気とともに生活する人と家族の理解 病気とともに生活する人と家族を支える看護の理解	渡部
2	2	腎機能に障害を持つ対象の看護	代表的な腎機能障害(腎不全)と対象の生活への影響(身体・精神・社会的側面)と看護の理解	渡部
3	2		腎不全とともに生活をする人の看護過程 (腎不全患者の理解のための情報収集)	渡部
4	2		腎不全とともに生活をする人の看護過程 (腎不全患者の理解のための情報の整理とアセスメント)	渡部
5	2		腎不全とともに生活をする人の看護過程 (腎不全患者の全体像の把握と看護問題の抽出)	渡部
6	2		腎不全とともに生活をする人の看護過程 (腎不全患者のセルフマネジメントを支える看護計画立案)	渡部
7	2	栄養・代謝機能に障害を持つ対象の看護	代表的な栄養・代謝機能障害(糖尿病)と対象の生活への影響(身体・精神・社会的側面)と看護の理解	星野
8	2		代表的な栄養・代謝機能障害(糖尿病)と対象の生活への影響(身体・精神・社会的側面)と看護の理解 糖尿病治療(自己注射法、簡易血糖測定)方法の理解	星野
9	2		糖尿病とともに生活をする人の看護過程 (糖尿病患者の理解のための情報収集)	星野
10	2		糖尿病とともに生活をする人の看護過程 (糖尿病患者の理解のための情報の整理とアセスメント)	星野
11	2			星野
12	2		糖尿病とともに生活をする人の看護過程 (糖尿病患者の全体像の把握と看護問題の抽出)	星野
13	2		糖尿病とともに生活をする人の看護過程 (糖尿病患者のセルフマネジメントを支える看護計画立案)	星野
14	2		糖尿病とともに生活をする人の看護過程 (看護過程の共有と振り返り)	星野
15	2	科目試験		

使用テキスト:新体系 看護学全書 専門分野Ⅱ 経過別成人看護学　慢性期看護　メジカルフレンド社
参考資料: 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　腎・泌尿器　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　内分泌・代謝　医学書院

評価方法:筆記試験、事前学修、授業への参加態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
53.生涯にわたり健康障害のコントロールを必要とする成人の看護Ⅱ				星野めぐみ　看護師21年　　峰村奈津美　看護師19年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30・15	1		講義　演習
DPとの関連	3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 4.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	成人期における人間の健康機能障害(脳神経機能障害、がん)を通し、成人期にある人が、生活を再構築していくための看護師の役割および、看護過程展開に必要な実践的な思考のプロセスを学修する。				
科目目標	1.脳神経障害、がんによる症状や治療が、患者の日常生活に及ぼす影響について理解することができる 2.腎機能障害患者、がん患者のセルフマネジメントを支援し、その人らしい生活を再構築するための看護方法を理解することができる				
事前学修	1.脳神経機能、がんに関連する解剖・生理学、病態生理について復習をする 2.成人看護学概論の内容を復習する 3.その他、担当者より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	脳神経機能に障害を持つ対象の看護	代表的な脳神経機能障害(脳梗塞)と対象の生活への影響と看護の理解	峰村
2	2		脳梗塞による身体機能障害とともに生活をする人の看護過程 脳梗塞患者の理解のための情報収集	峰村
3	2		脳梗塞による身体機能障害とともに生活をする人の看護過程 脳梗塞患者の理解のための情報の整理とアセスメント	峰村
4	2		脳梗塞による身体機能障害とともに生活をする人の看護過程 脳梗塞患者の全体像の把握と看護問題の抽出	峰村
5	2		脳梗塞による身体機能障害とともに生活をする人の看護過程 脳梗塞患者のその人らしい生活の再構築を支える看護計画立案	峰村
6	2	がん看護	がんおよびがん医療の理解 がんになった人とその家族の理解および看護	星野
7	2		がん治療と看護 (手術療法、がん化学療法、放射線療法)	星野
8	2			星野
9	2		大腸がんによる身体機能障害とともに生活する人の看護過程 (大腸がん患者の理解のための情報収集)	星野
10	2		大腸がんによる身体機能障害とともに生活する人の看護過程 (大腸がん患者の理解のための情報の整理とアセスメント)	星野
11	2			星野
12	2		大腸がんによる身体機能障害とともに生活する人の看護過程 大腸がん患者の全体像の把握と看護問題の抽出	星野
13	2		大腸がんによる身体機能障害とともに生活する人の看護過程 (大腸がん患者のその人らしい生活を再構築を支える看護計画立案)	星野
14	2		大腸がんによる身体機能障害とともに生活する人の看護過程 (看護過程の共有と振り返り)	星野
15	2	科目試験		

使用テキスト:新体系 看護学全書 専門分野Ⅱ 経過別成人看護学　慢性期看護　メジカルフレンド社
看護学テキストNiCE　がん看護　様々な発達段階・治療経過にあるがん患者を支える　南江堂
参考資料: 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　脳・神経　医学書院

評価方法:筆記試験、事前学修、授業への参加態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
54.周手術期看護				渡部恵利香　看護師7年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30・15	1	成人0.8　老年0.2	講義・演習
DPとの関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	成人期・老年期にある対象者を統合的にとらえ、周手術期にある対象者及びその家族に対して、科学的根拠に基づいた看護を実践するための実践的な思考を学修する				
科目目標	1.周手術期にある成人期・老年期の対象者が、手術侵襲や生体反応により影響をうけることを身体的・精神的・社会的・発達課題の側面から統合的に理解することができる。 2.周手術期にある成人期・老年期の対象者をリスク型看護問題の視点で看護過程展開し、術後合併症の予防と今後の生活を見据えた看護を理解する。				
事前学修	1.手術侵襲について復習する。 2.成人看護学概論の急性期看護について復習する 3.担当講師より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	周手術期看護の役割	1.手術療法と生体反応の基本の集団思考	渡部
2			2.手術療法と生体反応の基本の理解の共有	
3	2		3.周手術期の対象の理解 4.周手術期の看護の特徴	
4	2	手術過程に応じた看護	1.術前・術後の患者・家族の看護 1)術前評価　2)術後の機能回復への看護 (1)呼吸器合併症 (2)循環器合併症 (3)術後疼痛 (4)イレウス (5)術後感染 (6)縫合不全 (7)術後せん妄 2.腹腔鏡下手術を受ける患者の看護	
5	2			
6	2			
7	2			
8	2			
9	2		3.術中の患者・家族の看護	
10	2	開腹手術を受ける患者の看護	1.胃がんの手術が患者に与える侵襲と回復過程のアセスメント 2.胃がんの手術が与える生活への影響	
11	2			
11	2		3.胃がん手術を受けた患者の術後看護の観察と早期離床	
12	2	開胸手術を受ける患者の看護	1.肺がんの手術が患者に与える侵襲と回復過程の理解 ワークシート 2.肺がんの手術が与える生活への影響	
14	2			
15	2	科目試験		

使用テキスト:系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論
参考資料:人体の構造と機能で使用したテキスト・資料

評価方法:筆記試験、演習での提出物・参加態度

分野　専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
55.人生の終末を迎える人の看護				星野めぐみ　看護師21年　　佐々木保子　看護師7年 小池洋平　看護師16年　　清水美咲　看護師19年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	30・15	1	成人0.2　老年0.8	講義　演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 4.地域で暮ら人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる					
科目目的	終末期にある対象がQOLを最大限に保ち、その人にとっての良い最期を迎えることができるための看護実践に必要な症状コントロール、家族ケア、臨死期の看護、悲嘆とそのプロセスに応じた援助、グリーフケアについて学習する。				
科目目標	1.終末期医療の現状と課題、倫理的問題について説明できる 2.終末期にある成人・老年期にある人とその家族の特徴を説明できる 3.終末期にある成人・老年期にある人に対するの緩和ケアを考えることができる 4. 終末期にある成人・老年きにある人の死の徴候と看護を説明できる 5.看取りとグリーフケアについて説明できる 6.グリーフケアの実際について説明できる 7.高齢者の終末期ケアの特徴を説明できる 8.緩和ケア病棟と緩和ケアチームの役割について説明できる				
事前学修	成人看護学概論、老年看護学概論、対象の体験からQOLを考えて看護につなぐ実習の学びを踏まえ、もし、自分が人生の最期を迎える立場になった時に大切にしてほしいことについてレポートを記述する				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	終末期にある成人・老年期にある人の特徴と看護の役割	終末期医療の現状と課題 終末期看護の概念と特徴(エンドオブライフケア・緩和ケア) 終末期に起こりやすい倫理的課題 インフォームドコンセント、アドバンスドケアプランニング	星野
2	2			星野
3	2			星野
4	2	終末期にある人に対する緩和ケア	症状マネジメント (痛み、食欲低下、嘔気・嘔吐、便秘、全身倦怠感、、呼吸困難、浮腫、不安、抑うつ) 社会的苦痛に対する看護	小池
5	2			小池
6	2			小池
7	2		スピリチュアルペインに対する看護 (スピリチュアルペイン、SpiPasを用いたスピリチュアルペインに対するケア)	星野
8	2		コミュニケーション (傾聴・共感、NURSEを用いたコミュニケーション方法)	星野
9	2		対象の意思決定と生きる存在を支えるコミュニケーション演習	星野
10	2			星野
11	2	終末期にある対象の家族・遺族に対する看護	喪失・悲嘆 臨死期の変化と看護 看取りとグリーフケア	清水
12	2			清水
13	2	終末期にある高齢者への緩和ケア	高齢者に見られる症状の特徴と緩和ケアの方法	佐々木
14	2	終末期にある人に対する緩和ケア	終末期にある人への日常生活援助 (輸液ラインが入っている患者の寝衣交換)	佐々木
15	2	科目試験		

使用テキスト:新体系　看護学全書　専門分野Ⅱ　経過別成人看護学　終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア　メジカルフレンド社

評価方法:筆記試験、レポート

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
56.成人・老年看護学方法論Ⅰ				星野めぐみ　看護師21年 佐々木保子　看護師7年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	30・15	1	成人0.5　老年0.5	講義・演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られていることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合ることができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らし人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り込むことができる				
科目目的	事例を通し、複雑に関連し合う加齢変化・健康障害が生活に及ぼす影響をアセスメント、看護過程、援助技術を習得する				
科目目標	1.加齢変化・健康レベルの変化が対象の生活に及ぼす影響を、科学的思考に基づいて看護過程の展開ができる 2.加齢変化、健康レベルの変化を持ちながら対象が尊厳を持って生活を持続できるための看護を考え、実践することができる				
事前学修	1.成人看護学・老年看護学の講義の内容を復習する 2.高血圧症、パーキンソン病に関連する解剖・生理、病態生理、治療・検査、看護をまとめる				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	オリエンテーション	成人・老年看護学方法論Ⅰの学習の進め方 患者紹介	星野
2	2	健康保持増進の看護	疾病予防に伴う学習支援の看護過程の展開 事例紹介	星野
3	2		事例展開	
4	2		事例展開	
5	2		演習 場面　高血圧症の生活指導	
6	2		演習 場面　高血圧症の生活指導	
7	2		グループワーク発表	
8	2		グループワーク発表	
9	2	慢性期の看護	パーキンソン病患者の看護過程の展開 事例紹介	佐々木
10	2		事例展開	
11	2		事例展開	
12	2		演習 場面　排泄介助	
13	2		演習 場面　排泄介助	
14	2		グループワーク発表	
15	2	科目試験		

使用テキスト:講義で使用したテキスト
参考資料:講義で配布した資料

評価方法:筆記試験　提出記録物　演習態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
57.成人・老年看護学方法論Ⅱ				岡村ひろみ　看護師33年 佐々木保子　看護師7年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
3	前期	30・15	1	成人0.5　老年0.5	講義・演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られていることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合ることができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らし人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り込むことができる				
科目目的	事例を通し、複雑に関連し合う加齢変化・健康障害が生活に及ぼす影響をアセスメント、看護過程、援助技術を習得する				
科目目標	1.加齢変化・健康レベルの変化が対象の生活に及ぼす影響を、科学的思考に基づいて看護過程の展開ができる 2.加齢変化、健康レベルの変化を持ちながら対象が尊厳を持って生活を持続できるための看護を考え、実践することができる				
事前学修	1.成人看護学・老年看護学の講義の内容を復習する 2.成人老年看護学方法論Ⅰを復習する 3.大腿骨頸部骨折、認知症、誤嚥性肺炎に関連する解剖・生理、病態生理、治療・検査、看護をまとめる				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	オリエンテーション	成人・老年看護学方法論Ⅱの学習の進め方 患者紹介	岡村
2	2	急性期の看護	大腿骨頸部骨折手術後の患者の看護過程の展開	岡村
3	2		事例展開	
4	2		演習 場面　術後1日目の合併症早期発見の観察と初めての離床	
5	2		演習 場面　術後1日目の合併症早期発見の観察と初めての離床	
6	2		グループワーク発表	
7	2	健康を再構築する看護	大腿骨頸部骨折で回復期にある患者の看護過程の展開	岡村
8	2		演習 場面　機能維持・回復のための訓練	
9	2		演習 場面　機能維持・回復のための訓練	
10	2		グループワーク発表	
11	2	終末期の看護	臨死期にある患者の看護過程の展開 事例紹介	佐々木
12	2		事例展開	
13	2		演習 場面　臨死期にある患者の援助	
14	2		グループワーク発表	
15	2	終講試験		

使用テキスト:講義で使用したテキスト
参考資料:講義で配布した資料

評価方法:筆記試験　提出記録物　演習態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
58.老年看護学概論				佐々木保子　看護師7年　　吉井靖子　看護師44年 井澗由加理　看護師26年　　地田紀美子　看護師34年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30・15	1		講義・演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られていることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる				
科目目的	老年期の発達課題、加齢変化を踏まえ、対象となる高齢者を生活者として総合的に理解し、高齢社会における健康問題の動向と保健・医療・福祉制度を学び、老年期にある人々を支える看護を理解する				
科目目標	1.老年看護の概念と特徴について理解する 2.高齢者の加齢に伴う身体的・精神・社会的・スピリチュアリティの特徴と健康問題を理解する 3.高齢化社会の人口学的概況と諸問題を理解する 4.高齢者における保健・医療・福祉を理解する 5.高齢者の権利擁護と倫理的課題について理解する 6.老年看護の原則・目標を学び、老年看護の役割・責務を理解する				
事前学修	・高齢者の生きてきた時代背景を調べる ・高齢者に関する新聞等の情報から高齢者の置かれている社会情勢についてまとめる ・授業内容に対応したテキストを読んでおく				

回数	時間		授業内容	担当者
1	2	老年看護の対象理解	1.老いのイメージを捉える	佐々木
2	2		2.老いを理解する 1)加齢と老化 2)加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化	佐々木
3	2		3)高齢者の定義 4)高齢者の発達課題 5)高齢者のスピリチュアリティ 6)高齢者の健康と生活	佐々木
4	2	高齢者を取り巻く社会	3.超高齢社会の現況と将来像 1)超高齢社会の統計的輪郭 2)高齢者と家族 3)高齢者の健康状態 4)高齢者の社会的特徴	佐々木
5	2	超高齢社会における保健医療福祉	4.高齢者にかかわる保健医療福祉 1)保健福祉医療制度の変遷 2)介護保険制度の目的と理念 3)介護保険制度のしくみ	吉井
6	2		4)高齢者医療のしくみ 5)高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化	吉井
7	2	老年看護における倫理	4.高齢者の権利擁護 1)高齢者に対するスティグマと差別 2)高齢者虐待、身体拘束 3)権利擁護のための制度	佐々木
8	2	老年看護の目的と役割	5.老年看護の役割 1)老年看護の定義 2)老年看護の特徴 3)老年看護に携わる者の責務	佐々木
9	2	老年看護における理論・概念	6.老年看護に役立つ理論	佐々木
10	2	高齢者のヘルスアセスメント	7.ヘルスアセスメントの基本 1)生活の自立状態のアセスメント 2)心理・社会的(認知)健康のアセスメント 3)環境のアセスメント 4)生活史のアセスメント	井澗
11	2		5)身体の加齢変化とアセスメント	佐々木
12	2			佐々木
13	2		6)高齢者体験	佐々木
14	2	高齢者のリスクマネージメント	1.高齢者と医療安全 2.高齢者と災害看護	地田
15	2	科目試験		

使用テキスト:　e老年看護学　e老年看護病態・疾患論(医学書院)
参考資料:国民衛生の動向(一般財団法人　厚生労働省統計協会)

評価方法:筆記試験　事前課題　レポート

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
59.高齢者の生活を支える看護				佐々木保子　看護師7年　　平山ゆずり　看護師28年 地田紀美子　看護師34年　　保科三千代　看護師	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30時間・15回	1		講義　演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られていることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らし人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り込むことができる				
科目目的	加齢・健康障害に伴って起こる特徴的な症状、生活行動の変化を理解し、対象の生活機能と自立を支え、高齢者のQOLの維持・向上を図るための看護を理解する				
科目目標	1.高齢者の加齢変化・健康状態の変化によっておこる生活行動の変化、心身に生じるリスクについて理解する 2.自立支援の視点から生活障害・健康障害に適した看護の方法を理解する 3.高齢者の生活の質の維持・向上を目指した看護を理解する 4.介護保険施設等で生活する高齢者の看護と、多職種連携・協働の目的と方法について理解する				
事前学修	1)老年看護学概論の復習する 2)授業に合わせてテキストを読んでおく 3)高齢者の日常生活活動動作の評価指標についてまとめる				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	高齢者の移動を支える看護	1.転倒のアセスメントと看護 1)骨粗鬆症 2)転倒・骨折 3)転倒・転落の防止	地田
2	2		2.廃用症候群のアセスメントと看護 1)高齢者と廃用症候群 2)廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護	平山
3	2	高齢者の食生活を支える看護	3.食事と看護ケア 1)高齢者に特徴的な変調　2)脱水 3)嚥下障害　4)低栄養　5)食事に対する看護ケア	地田
4	2		6)経口的栄養摂取の援助(食事介助・口腔ケア)	佐々木
5	2		7)非経口的栄養摂取の援助(経管栄養法・中心静脈栄養法)	佐々木
6	2		8)経鼻経管栄養法の実際	佐々木
7	2	高齢者の排泄を支える看護	8.高齢者の排泄ケアの基本 1)排泄アセスメントとケア	佐々木
8	2		2)膀胱留置カテーテル挿入演習	佐々木
9	2	高齢者の清潔・衣生活を支える看護	9.高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 1)防衛機能の加齢による変化、感染症、感染予防 2)清潔のアセスメントとと清潔ケア(身だしなみ、行為動作、褥瘡、皮膚トラブル)	地田
10	2	その人らしい生活の継続を支える看護	10.生活リズムと看護ケア 1)高齢者と生活リズム　2)高齢者に特徴的な変調 3)生活リズムのアセスメント　4)生活リズムを整える看護	保科
11	2	高齢者のコミュニケーションを支える看護	11.コミュニケーションと看護ケア 1)高齢者とのコミュニケーションとかかわり方の原則 2)コミュニケーション能力のアセスメント 3)高齢者におこりやすいコミュニケーション障害	保科
12	2		12.認知機能障害のある高齢者の看護 1)うつのアセスメントと看護　2)せん妄のアセスメントと看護 3)認知症のアセスメントと看護	保科

13	2	高齢者の薬物療法を 支える看護	13.薬物療法を受ける高齢者の看護 1)加齢に伴う薬物動態の変化 2)高齢者に特徴的な薬物有害事象 3)老年症候群と薬物有害事象 4)服薬管理能力のアセスメントと服薬支援	佐々木
14	2	多様な生活の場で高齢者の 健康を支える看護	14.介護保険施設等で生活する高齢者の特徴と看護 15.看護と多職種の協働と連携	佐々木
15	2	科目試験		
使用テキスト:eテキスト老年看護学　e老年看護病態・疾病　医学書院 参考資料:国民衛生の同行　一般財団法人　厚生労働統計協会				
評価方法:筆記試験・提出物　演習態度				

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
60.周手術期看護				渡部恵利香　看護師7年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30・15	1	成人0.8　老年0.2	講義・演習
DPとの関連	4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	成人期・老年期にある対象者を統合的にとらえ、周手術期にある対象者及びその家族に対して、科学的根拠に基づいた看護を実践するための実践的な思考を学修する				
科目目標	1.周手術期にある成人期・老年期の対象者が、手術侵襲や生体反応により影響をうけることを身体的・精神的・社会的・発達課題の側面から統合的に理解することができる。 2.周手術期にある成人期・老年期の対象者をリスク型看護問題の視点で看護過程展開し、術後合併症の予防と今後の生活を見据えた看護を理解する。				
事前学修	1.手術侵襲について復習する。 2.成人看護学概論の急性期看護について復習する 3.担当講師より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	周手術期看護の役割	1.手術療法と生体反応の基本の集団思考	渡部
2			2.手術療法と生体反応の基本の理解の共有	
3	2		3.周手術期の対象の理解 4.周手術期の看護の特徴	
4	2	手術過程に応じた看護	1.術前・術後の患者・家族の看護 1)術前評価　2)術後の機能回復への看護 (1)呼吸器合併症 (2)循環器合併症 (3)術後疼痛 (4)イレウス (5)術後感染 (6)縫合不全 (7)術後せん妄 2.腹腔鏡下手術を受ける患者の看護	
5	2			
6	2			
7	2			
8	2			
9	2		3.術中の患者・家族の看護	
10	2	開腹手術を受ける患者の看護	1.胃がんの手術が患者に与える侵襲と回復過程のアセスメント 2.胃がんの手術が与える生活への影響	
11	2			
11	2		3.胃がん手術を受けた患者の術後看護の観察と早期離床	
12	2	開胸手術を受ける患者の看護	1.肺がんの手術が患者に与える侵襲と回復過程の理解 ワークシート 2.肺がんの手術が与える生活への影響	
14	2			
15	2	科目試験		

使用テキスト:系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論
参考資料:人体の構造と機能で使用したテキスト・資料

評価方法:筆記試験、演習での提出物・参加態度

分野　専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
61.人生の終末を迎える人の看護				星野めぐみ　看護師21年　　佐々木保子　看護師7年 小池洋平　看護師16年　　清水美咲　看護師19年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	30・15	1	成人0.2　老年0.8	講義　演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 4.地域で暮ら人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる					
科目目的	終末期にある対象がQOLを最大限に保ち、その人にとっての良い最期を迎えることができるための看護実践に必要な症状コントロール、家族ケア、臨死期の看護、悲嘆とそのプロセスに応じた援助、グリーフケアについて学習する。				
科目目標	1.終末期医療の現状と課題、倫理的問題について説明できる 2.終末期にある成人・老年期にある人とその家族の特徴を説明できる 3.終末期にある成人・老年期にある人に対するの緩和ケアを考えることができる 4. 終末期にある成人・老年きにある人の死の徴候と看護を説明できる 5.看取りとグリーフケアについて説明できる 6.グリーフケアの実際について説明できる 7.高齢者の終末期ケアの特徴を説明できる 8.緩和ケア病棟と緩和ケアチームの役割について説明できる				
事前学修	成人看護学概論、老年看護学概論、対象の体験からQOLを考えて看護につなぐ実習の学びを踏まえ、もし、自分が人生の最期を迎える立場になった時に大切にしてほしいことについてレポートを記述する				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	終末期にある成人・老年期にある人の特徴と看護の役割	終末期医療の現状と課題 終末期看護の概念と特徴(エンドオブライフケア・緩和ケア) 終末期に起こりやすい倫理的課題 インフォームドコンセント、アドバンスドケアプランニング	星野
2	2			星野
3	2			星野
4	2	終末期にある人に対する緩和ケア	症状マネジメント (痛み、食欲低下、嘔気・嘔吐、便秘、全身倦怠感、、呼吸困難、浮腫、不安、抑うつ) 社会的苦痛に対する看護	小池
5	2			小池
6	2			小池
7	2		スピリチュアルペインに対する看護 (スピリチュアルペイン、SpiPasを用いたスピリチュアルペインに対するケア)	星野
8	2		コミュニケーション (傾聴・共感、NURSEを用いたコミュニケーション方法)	星野
9	2		対象の意思決定と生きる存在を支えるコミュニケーション演習	星野
10	2			星野
11	2	終末期にある対象の家族・遺族に対する看護	喪失・悲嘆 臨死期の変化と看護 看取りとグリーフケア	清水
12	2			清水
13	2	終末期にある高齢者への緩和ケア	高齢者に見られる症状の特徴と緩和ケアの方法	佐々木
14	2	終末期にある人に対する緩和ケア	終末期にある人への日常生活援助 (輸液ラインが入っている患者の寝衣交換)	佐々木
15	2	科目試験		

使用テキスト:新体系　看護学全書　専門分野Ⅱ　経過別成人看護学　終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア　メジカルフレンド社

評価方法:筆記試験、レポート

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
62.成人・老年看護学方法論Ⅰ				星野めぐみ　看護師21年 佐々木保子　看護師7年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	30・15	1	成人0.5　老年0.5	講義・演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られていることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合ることができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らし人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り込むことができる				
科目目的	事例を通し、複雑に関連し合う加齢変化・健康障害が生活に及ぼす影響をアセスメント、看護過程、援助技術を習得する				
科目目標	1.加齢変化・健康レベルの変化が対象の生活に及ぼす影響を、科学的思考に基づいて看護過程の展開ができる 2.加齢変化、健康レベルの変化を持ちながら対象が尊厳を持って生活を持続できるための看護を考え、実践することができる				
事前学修	1.成人看護学・老年看護学の講義の内容を復習する 2.高血圧症、パーキンソン病に関連する解剖・生理、病態生理、治療・検査、看護をまとめる				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	オリエンテーション	成人・老年看護学方法論Ⅰの学習の進め方 患者紹介	星野
2	2	健康保持増進の看護	疾病予防に伴う学習支援の看護過程の展開 事例紹介	星野
3	2		事例展開	
4	2		事例展開	
5	2		演習 場面　高血圧症の生活指導	
6	2		演習 場面　高血圧症の生活指導	
7	2		グループワーク発表	
8	2		グループワーク発表	
9	2	慢性期の看護	パーキンソン病患者の看護過程の展開 事例紹介	佐々木
10	2		事例展開	
11	2		事例展開	
12	2		演習 場面　排泄介助	
13	2		演習 場面　排泄介助	
14	2		グループワーク発表	
15	2	科目試験		

使用テキスト:講義で使用したテキスト
参考資料:講義で配布した資料

評価方法:筆記試験　提出記録物　演習態度

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
63.成人・老年看護学方法論Ⅱ				岡村ひろみ　看護師33年 佐々木保子　看護師7年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
3	前期	30・15	1	成人0.5　老年0.5	講義・演習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られていることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合ることができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5.地域で暮らし人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り込むことができる				
科目目的	事例を通し、複雑に関連し合う加齢変化・健康障害が生活に及ぼす影響をアセスメント、看護過程、援助技術を習得する				
科目目標	1.加齢変化・健康レベルの変化が対象の生活に及ぼす影響を、科学的思考に基づいて看護過程の展開ができる 2.加齢変化、健康レベルの変化を持ちながら対象が尊厳を持って生活を持続できるための看護を考え、実践することができる				
事前学修	1.成人看護学・老年看護学の講義の内容を復習する 2.成人老年看護学方法論Ⅰを復習する 3.大腿骨頸部骨折、認知症、誤嚥性肺炎に関連する解剖・生理、病態生理、治療・検査、看護をまとめる				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	オリエンテーション	成人・老年看護学方法論Ⅱの学習の進め方 患者紹介	岡村
2	2	急性期の看護	大腿骨頸部骨折手術後の患者の看護過程の展開	岡村
3	2		事例展開	
4	2		演習 場面　術後1日目の合併症早期発見の観察と初めての離床	
5	2		演習 場面　術後1日目の合併症早期発見の観察と初めての離床	
6	2		グループワーク発表	
7	2	健康を再構築する看護	大腿骨頸部骨折で回復期にある患者の看護過程の展開	岡村
8	2		演習 場面　機能維持・回復のための訓練	
9	2		演習 場面　機能維持・回復のための訓練	
10	2		グループワーク発表	
11	2	終末期の看護	臨死期にある患者の看護過程の展開 事例紹介	佐々木
12	2		事例展開	
13	2		演習 場面　臨死期にある患者の援助	
14	2		グループワーク発表	
15	2	終講試験		

使用テキスト:講義で使用したテキスト
参考資料:講義で配布した資料

評価方法:筆記試験　提出記録物　演習態度

専門分野Ⅱ

科目名				担当講師	
64.リプロダクティブヘルス看護学概論				横澤亜希子　助産師・看護師25年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
1	後期	30	1		講義

DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる 3.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる
科目目的	母子保健の動向と現状を知り、リプロダクティブヘルスとその看護について理解を深める
科目目標	1. 母子保健の変遷と現状を知り、母性看護の理念・目的・対象が理解できる 2. 母子保健の現状を統計からとらえ、母子保健の法律と保健施策について理解できる 3. 生殖に関係する生理的現象と生殖機能の持つ意味について理解できる 4. 女性のライフサイクル各期の健康問題と看護が理解できる 5. 母性看護における倫理観を学び、対象の意思決定の尊重が理解できる
事前学修	日本及び上越地域の出生に関する母子保健統計について調査する。

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	母性看護の概念	母性の概念 母性看護の対象	横澤
2	2	母性看護の基盤	母性看護の理念　母性看護の目的・目標 母性看護の役割　母性看護の場と職種	
3	2	母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状・母子保健①	日本の母性看護の歩みと母子保健動向 母子保健に関する法律および施策 様々な状況下における母子保健 周産期医療システム	
4	2	母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状・母子保健②		
5	2	女性の生殖に関する生理	生殖器の形態・機能 性周期と妊娠の成り立ち　DVD学習	
6	2	セクシュアリティの概念	人間の性/セクシュアリティ概念 性役割と性の多様性	
7	2	思春期の健康問題と看護①	思春期の健康問題と看護	
8	2	思春期の健康問題と看護②	思春期の保健指導/GW	
9	2	思春期教育	思春期健康教育の実践・発表	
10	2	成熟期の健康問題と看護①	成熟期女性の特徴/健康問題と看護 成熟期の健康教育と課題	
11	2	成熟期の健康問題と看護②		
12	2	更年期・老年期の健康問題と看護	更年期・老年期の特徴/健康問題と看護	
13	2	母性看護における倫理①	看護倫理と生命倫理 生殖をめぐる倫理的課題と意思決定支援 DVD学習とカンファレンス	
14	2	母性看護における倫理②		
15	2	科目試験		

使用テキスト:　メディカ出版テキスト:概論・リプロダクティブヘルスと看護　母性看護の実際　母性看護技術

評価方法:GWの様子と学習成果物　筆記試験

専門分野Ⅱ

科目名	担当講師
65.リプロダクティブヘルス 看護学方法論Ⅰ(妊娠期・分娩期)	上原尚子　助産師・看護師　7年 渡邉文香　保健師・助産師・看護師13年

年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	30	1		講義

DPとの関連	1. すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2. 看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 3. その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全安楽な看護を実践することができる
科目目的	正常な妊娠・分娩の経過と看護の学修を基盤とし、ハイリスク状態にある妊婦と産婦の看護についても理解できる
科目目標	1. 妊娠の生理と妊娠による生理的変化、心理・社会的特徴が理解できる 2. 正常な妊娠経過を促すための看護が理解できる 3. 分娩の要素と経過が理解できる 4. 正常な分娩経過を促すための看護が理解できる 5. 妊娠期・分娩期のハイリスクな状態と看護について理解できる
事前学修	リプロダクティブヘルス看護学概論で学習した“女性生殖器の形態・機能/性周期と妊娠の成り立ち” について復習する

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	妊娠の生理	妊娠の生理 妊娠期の身体・心理・社会的特徴	上原先生
2	2	妊娠の診断と経過	妊娠の診断と妊娠の経過	
3	2	妊娠期の看護	妊娠中の妊婦と胎児の変化とマイナートラブル 妊娠期の日常生活援助	
4	2			
5	2	妊娠期の保健指導	妊娠期の保健指導	
6	2	母親役割獲得	母親役割獲得の準備/妊娠期のメンタルヘルス	
7	2	ハイリスク妊婦の看護	ハイリスク妊娠/合併症/ハイリスク妊婦の看護	
8	2	分娩の要素　分娩の経過	分娩の要素　　分娩開始から分娩経過の進行	渡邊先生
9	2			
10	2	分娩期の看護	産婦のニードと分娩時の看護　メンタルケア	
11	2			
12	2	ハイリスク産婦の看護	分娩時のハイリスク状態　ハイリスク分娩の看護	
13	2			
14	2	帝王切開分娩時の看護	帝王切開の適応/産婦の看護	
15	2	科目試験		

使用テキスト:　メディカ出版テキスト　概論・リプロダクティブヘルスと看護　母性看護の実践　母性看護技術

評価方法:筆記試験　提出成果物の内容

専門分野Ⅱ					
科　目　名				担　当　講　師	
66.リプロダクティブヘルス 看護学方法論Ⅱ(産褥期・新生児)				横澤亜希子　助産師・看護師25年 庄司なおみ　看護師28年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	30	1		講義
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 3.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全安楽な看護を実践することができる				
科目目標	正常な産褥経過・新生児の特徴及びその看護を学修し、異常時の褥婦・新生児の看護も理解する				
科目目標	1. 産褥期の生理的変化・特性が理解ができる 2. 正常な産褥経過を促すための看護が理解できる 3. 新生児の生理的変化/7特徴が理解できる 4. 新生児の順調な子宮外適応を促すための看護が理解できる 5. 産褥期に生じる異常とその看護が理解できる 6. 新生児に生じる異常とその看護が理解できる				
事前学修	産褥期の身体的特徴・新生児の特徴について予習する				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	産褥期の経過	産褥の定義と経過	横澤
2	2	褥婦の看護	正常な褥婦の看護・産褥経過の診断とアセスメント 産後の母子施策 褥婦に必要な保健指導	
3	2			
4	2			
5	2	産褥期の異常	ハイリスク褥婦/産褥期の異常 死産時の看護	
6	2	ハイリスク褥婦の看護	ハイリスク褥婦の看護	
7	2	新生児の特徴 新生児の看護/検査	新生児の定義・分類/子宮外適応現象/新生児の特徴	
8	2		出生直後の看護　/新生児の評価	
9	2	ハイリスク新生児	新生児の特徴//新生児の異常	庄司先生
10	2	ハイリスク新生児の看護	ハイリスク新生児とは　先天異常・障害児の看護 ハイリスク新生児の家族への看護	
11	2			
12	2			
13	2	保育器で過ごす新生児の看護	保育器で過ごす新生児の看護	横澤
14	2	新生児の観察	新生児のフィジカルアセスメント/援助計画書作成	
15	2	科目試験		

使用テキスト:メディカ出版テキスト　概論・リプロダクティブヘルスと看護　母性看護の実践　母性看護技術

評価方法:筆記試験　提出成果物の内容

専門分野Ⅱ					
科　目　名				担　当　講　師	
67.リプロダクティブヘルス 看護学方法論Ⅲ(看護過程展開)				横澤亜希子　助産師・看護師25年 渡邉文香　保健師・助産師・看護師13年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	30	1		講義
DPとの関連	1.主体的に仲間と共に考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 2.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全安楽な看護を実践することができる 3.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる				
科目目標	事例を用いた看護過程展開のシミュレーション学習から根拠ある安全安楽な周産期看護を理解する				
科目目標	1. 事例を用いてウェルネス志向で科学的根拠に基づく看護過程の展開ができる(褥婦と新生児) 2. シミュレーション学習を通じ、妊産褥婦と新生児に必要な看護技術を安全安楽に実践できる				
事前学修	妊娠・分娩・産褥期の経過と看護、新生児の特徴と看護について予習する				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	看護過程の展開①	ウェルネス志向のアセスメント理解	横澤
2	2		GW・カンファレンスを交えながら事例を用いて看護過程を展開(思考と記録)	
3	2			
4	2			
5	2	妊婦に必要な看護技術	援助計画書に基づきシミュレーション学習 ・観察技術 ・生活援助技術	渡邊先生
6	2	産婦に必要な看護技術	援助計画書に基づきシミュレーション学習 ・観察技術 ・生活援助技術	
7	2			
8	2	褥婦に必要な看護技術	援助計画書に基づきシミュレーション学習 ・観察技術 ・生活援助技術	横澤
9	2			
10	2	看護過程の展開②	GW・カンファレンスを交えながら事例を用いて看護過程を展開(実践/演習)	
11	2			
12	2	新生児に必要な看護技術	援助計画書に基づきシミュレーション学習 ・観察技術 ・生活援助技術	
13	2			
14	2			
15	2			

使用テキスト:メディカ出版テキスト　概論・リプロダクティブヘルスと看護　母性看護の実践　母性看護技術
参考資料:リプロダクティブヘルス看護学方法論Ⅰ・Ⅱの講義資料

評価方法:提出や発表する課題内容　演習の取り組み方　GWへの参加姿勢

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
68.こども看護学概論				後藤　舞　看護師13年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2年次	後期	15時間・8回	1単位		講義/GW
DPとの関連	1. すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし，人の生死に真摯に向き合うことができる 2. 対象に関心を向けて，優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み，対象と同じ方向を向いて，共に生きる幸せや喜び，悲しみを感じることができる 3. 主体的に仲間とともに考え，協力して課題を解決し，その経験を通して，達成感や自尊感情を高めることができる 4. 看護の対象と意図的に関わり，多様性を踏まえて，身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 8. 看護に興味・関心があり，成長したいという意欲をもって，主体的に学習に取り組むことができる 9. 多様な文化・価値観をもったありのままの人間を尊重することができる				
科目目的	1. こども看護の概要と目的およびこどもの成長・発達を理解する				
科目目標	1. こども看護の変遷を知り，こども看護の目的が理解する 2. こどもを取り巻く社会の現状を知り，こどもの権利が理解する 3. こどもの成長・発達を理解する				
事前学修	シラバスとテキストを参考に授業内容を読み取る				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	こども看護学の概念と理論	1. こども看護とは 2. こども看護の歴史と意義	後藤
2	2		3. こどもの権利と看護 4. こども看護と法律・施行	
3	2		5. こども看護に用いられる理論	
4	2	こどもの成長・発達と看護	1. 成長・発達の原則 2. 乳児期のこどもの成長・発達と看護	
5	2		3. 幼児期のこどもの成長・発達と看護	
6	2		4. 学童期のこどもの成長・発達と看護 5. 思春期の人々もの成長・発達と看護	
7	2		6. 発育の評価 まとめ	
8	2	終講試験		

使用テキスト:メディカ出版　ナーシング・グラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護
参考資料:必要に応じて紹介

評価方法:提出物　終講試験

専門分野					
科 目 名				担 当 講 師	
69.こども看護学方法論Ⅰ				後藤 舞 看護師13年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2年次	前期	15時間・8回	1単位		講義/GW/演習
DPとの関連	1. すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし，人の生死に真摯に向き合うことができる 2. 対象に関心を向けて，優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み，対象と同じ方向を向いて，共に生きる幸せや喜び，悲しみを感じることができる 3. 主体的に仲間とともに考え，協力して課題を解決し，その経験を通して，達成感や自尊感情を高めることができる 4. 看護の対象と意図的に関わり，多様性を踏まえて，身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 5. 地域で暮らし人々のニーズを踏まえ，予測しながら，いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6. その人らしく暮らすことができるように，その人の持てる力を活用し，安全・安楽な看護を実践することができる 7. 切れ目のない医療の現実に向け，多職種チームの中で看護の視点から発信でき，多職種と対話ができる 8. 看護に興味・関心があり，成長したいという意欲をもって，主体的に学習に取り組むことができる 9. 多様な文化・価値観をもったありのままの人間を尊重することができる 10. 国際情勢，地域の動向に関心をもつことができる				
科目目的	1. こども看護に必要な知識と技術を習得する				
科目目標	1. こどもが安全・安楽に生活できる環境を理解する 2. こどもが獲得する基本的日常生活習慣と看護技術を習得する				
事前学修	シラバスとテキストを参考に授業内容を読み取る				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	援助関係を形成する技術	1. 援助関係を形成する上で必要な基礎知識 2. 援助関係を形成する技術の活用	後藤
2	2			
3	2	安心・安全な環境を調整する技術	1. 発達段階に応じた環境づくり	
4	2	食事の援助技術	1. こどもへの食事援助の実際	
5	2			
6	2	排泄の援助技術	1. 排泄行動自立への援助 2. 浣腸	
7	2	清潔・衣生活の援助技術	1. 清拭 2. 衣服の交換	
8	2	終講試験		

使用テキスト:メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護
メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術
参考資料:必要に応じて紹介

評価方法:提出物 終講試験

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
70.こども看護学方法論Ⅱ				関　貴子　看護師16年 寺尾明美　看護師11年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2年次	後期	30時間・15回	1単位		講義/GW/演習

DPとの関連	1. すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし，人の生死に真摯に向き合うことができる 2. 対象に関心を向けて，優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み，対象と同じ方向を向いて，共に生きる幸せや喜び，悲しみを感じることができる 3. 主体的に仲間とともに考え，協力して課題を解決し，その経験を通して，達成感や自尊感情を高めることができる 4. 看護の対象と意図的に関わり，多様性を踏まえて，身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 5. 地域で暮らし人々のニーズを踏まえ，予測しながら，いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6. その人らしく暮らすことができるように，その人の持てる力を活用し，安全・安楽な看護を実践することができる 7. 切れ目のない医療の現実に向け，多職種チームの中で看護の視点から発信でき，多職種と対話ができる 8. 看護に興味・関心があり，成長したいという意欲をもって，主体的に学習に取り組むことができる 9. 多様な文化・価値観をもったありのままの人間を尊重することができる 10. 国際情勢，地域の動向に関心をもつことができる
科目目的	1. 健康障害をもつこどもとその家族の看護の特性を理解する
科目目標	1. 健康障害をもつこどもと看護の特性について理解する 2. 健康障害をもつこどもとその家族の看護が理解する 3. 健康障害をもつこどもの看護技術について習得する
事前学修	シラバスとテキストを参考に授業内容を読み取る

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	健康障害をもつこども・家族への看護	1. 健康障害や入院がこどもと家族に及ぼす影響	外部講師
2	2		2. 急性期にあるこどもと家族への看護 3. 慢性期にあるこどもと家族への看護 4. 終末期にあるこどもと家族への看護	
3	2			
4	2		5. 検査や処置を受けるこどもと家族への看護	
5	2		6. 手術を受けるこどもと家族への看護 7. 外来におけるこどもと家族への看護	
6	2		8. 在宅におけるこどもと家族への看護 9. 災害を受けたこどもと家族への看護 10. 被虐待児と家族への看護	
7	2	呼吸・循環を整える技術	1. 酸素療法 2. 吸入 3. 体位ドレナージ	
8	2	与薬の技術	1. 与薬に必要な基礎知識 2. 輸液管理	
9	2			
10	2	救急救命の技術	1. 救急救命 2. その他の応急処置	
11	2	症状・生体機能の管理技術	1. バイタルサイン測定 2. 検体の採取 3. 検査 4. 身体計測	
12	2			
13	2			
14	2	障害のあるこどもと家族の看護	1. 障害のとらえ方 2. 障害のあるこどもと家族の特徴 3. 障害のあるこどもと家族の社会支援	関
15	2	終講試験		

使用テキスト:メディカ出版　ナーシング・グラフィカ　小児看護学②　小児看護技術
メディカ出版　ナーシング・グラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護
参考資料:必要に応じて紹介

評価方法:提出物　終講試験

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
71.こども看護学方法論Ⅲ				坂井知倫　医師12年 後藤　舞　看護師13年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2年次	後期	30時間・15回	1単位		講義/GW
DPとの関連	1. すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし，人の生死に真摯に向き合うことができる 2. 対象に関心を向けて，優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み，対象と同じ方向を向いて，共に生きる幸せや喜び，悲しみを感じることができる 3. 主体的に仲間とともに考え，協力して課題を解決し，その経験を通して，達成感や自尊感情を高めることができる 4. 看護の対象と意図的に関わり，多様性を踏まえて，身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 5. 地域で暮らし人々のニーズを踏まえ，予測しながら，いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6. その人らしく暮らすことができるように，その人の持てる力を活用し，安全・安楽な看護を実践することができる 7. 切れ目のない医療の現実に向け，多職種チームの中で看護の視点から発信でき，多職種と対話ができる 8. 看護に興味・関心があり，成長したいという意欲をもって，主体的に学習に取り組むことができる 9. 多様な文化・価値観をもったありのままの人間を尊重することができる 10. 国際情勢，地域の動向に関心をもつことができる				
科目目的	1. こどもの主要な疾患の病態・症状・検査・治療を学び，看護過程の展開を理解する				
科目目標	1. こどもの主要な疾患の病態生理・症状・検査・治療について理解する 2. 健康障害をもつこどもへの看護過程を理解する				
事前学修	シラバスとテキストを参考に授業内容を読み取る				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	主要な疾患	1. 新生児疾患 2. 遺伝性疾患・染色体異常 3. 代謝・内分泌疾患 4. 免疫・アレルギー・膠原病 5. 感染症 6. 呼吸器疾患 7. 循環器疾患 8. 腎・泌尿器疾患 9. 消化器疾患 10. 血液・腫瘍疾患 11. 神経・筋・精神疾患 12. 外科疾患 13. 眼疾患	坂井
2	2			
3	2			
4	2			
5	2			
6	2			
7	2			
8	2			
9	2	看護過程の展開	事例による看護過程の展開 1. 臨床判断モデル 2. 川崎病病態生理 3. アセスメント 4. 関連図 5. 看護記録 6. グループ発表	後藤
10	2			
11	2			
12	2			
13	2			
14	2			
15	2	終講試験		

使用テキスト:メディカ出版　ナーシング・グラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護
メディカ出版　ナーシング・グラフィカ　小児看護学②　小児看護技術
メディカ出版　ナーシング・グラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護
参考資料:必要に応じて紹介

評価方法:提出物　終講試験

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
72.看護の統合と実践Ⅰ (看護管理と環境に応じた看護の機能)				小野塚久美子　看護師38年　　相馬和則　看護師19年 山崎達枝　看護師34年　　加固正子　看護師14年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
3	前期	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの関連	5.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む 9.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる 10.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる				
科目目的	1.対象への看護の質を高めるために、組織の中の看護管理の必要性を理解し、看護のマネジメントできる基礎的な知識を学ぶ 2.災害・国際情勢についての基礎的な知識を学び、看護につなげられる力を養う				
科目目標	1.組織の中での看護管理について理解する 2.医療における安全管理の必要性が理解する 3.災害医療・看護の必要性が理解する 4.国際情勢を知り、国際協力の必要性や意義を認識し、これからの展望について考える				
事前学修	1.担当講師より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	看護とマネジメント	1.看護管理学とは 2.マネジメントとは　3.看護におけるマネジメント	小野塚
2	2	看護ケアとマネジメント	4.看護ケアのマネジメントと看護職の機能 5.患者の権利の尊重 6.チーム医療における看護師の役割 7.他職種連携 8.看護業務の実践	小野塚
3	2	看護サービスとマネジメント	1.看護サービスの対象と範囲 2.看護の組織化の理解 3.看護サービス提供のしくみづくり	小野塚
4	2	看護を取り巻く諸制度マネジメントにおける必要な知識・技術	1.看護職と法制度 2.看護教育制度及び継続教育とマネジメント 3.組織構造と組織の原則 4.組織の調整	小野塚
5	2	医療安全の基本的な考え方	1.なぜ医療安全を学ぶのか 2.医療安全の考えの変化 3.医療安全に関する用語の理解	小野塚
6	2	医療事故対策	1.事例に学ぶ医療事故 2.対象の安全確保の理解	小野塚
7	2	組織で取り組む医療安全	1.医療機関における医療安全体制 2.安全管理プロセスの理解 3.内部報告制度　4.院内感染対策	小野塚
8	2	事例から学ぶ医療安全	1.KYTを体験しよう 2.起きた後の対策を考える	小野塚
9	2	災害看護	DMATの活動を紹介	相馬
10	2		1.災害看護の歩みの理解 2.災害医療・災害看護の基礎知識の理解	山崎
11	2		3.災害サイクルに応じた災害看護の理解 4.こころのケア	山崎
12	2		5.救護所の設置	山崎
13	2	国際協力のしくみ	1.国際看護を学ぶ意義　2.グローバルヘルス	加固
14	2	看護における国際化の状況	1.国際協力のしくみ 1)国際救援・保健医療福祉分野で活躍する国際機関 2)国際救援の調整・保健医療福祉分野での課題 2.異(多)文化を考慮した看護	加固
15	2	科目試験		

使用テキスト:e系統看護学講座　看護管理・災害看護・国際看護　医学書院
参考資料:医療安全ワークブック　医学書院

評価方法:筆記試験

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
73.看護の統合と実践Ⅱ (チーム連携・協働)				渡部恵利香　看護師8年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
3	前期	45時間・23回	2		講義・演習

DPとの関連	5.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む 9.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる 10.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる
科目目的	臨床場面を想定することで、看護チームの一員として既習の知識・技術・倫理観を統合し、複数対象者の状態に応じた優先順位を考えて臨床判断能力を養う。 退院調整看護師の役割を学ぶことで、対象とその家族が地域や在宅で自分らしく過ごすために必要な支援を理解する。
科目目標	1.多重課題を通して知識、技術を統合し、対象に適切な看護を実践する能力を養う 2.メンバーシップ・リーダーシップを理解し、実践する 3.療養の場の移行支援から多職種連携・協働を理解する
事前学修	1.担当講師より提示された事前学修

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	看護業務の実際	1.医療事故と看護業務 2.看護事故の構造 3.優先順位の考え方	渡部
2	2		4.タイムマネジメントの考え方 5.リーダーシップ、メンバーシップとは 6.申し送り・引き継ぎの必要性と方法	
3	2	療養の場の移行する人々への看護	1.療養の場の移行支援とは 2.療養の場の移行支援の意義	
4	2		3.療養の場の具体的な方法 1)退院調整看護師の役割 2)多職種連携・協働	
5	2		4.事例から療養の場の移行支援の具体的方法を考える	
6	2		5.事例から療養の場の移行支援の具体的方法の共有理解	
7	2	人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ	1.集団(グループ)の持つ意味 2.看護における集団へのアプローチの種類と目的 3.看護における集団へのアプローチの基本と実際	
8	2	多重課題への対応	1.複数事例のアセスメント 2.重要度・緊急度の判定 3.優先順位の決定	
9	2			
10	2		4.複数事例のアセスメントと優先順位の決定の共有理解	
11	2		5.複数事例に必要な援助、多重課題の把握 6.複数事例の看護計画の立案	
12	2			
13	2		7.複数事例の多重課題に対しての援助計画書作成 8.リーダーシップ、メンバーシップの役割を考えてシナリオ作成	
14	2			
15	2			
16	2	多重課題への対応の実際	ロールプレーイング発表	
17	2			
18	2			
19	2			
20	2		1.ロールプレーイングを振り返り優先順位を再度検討 2.1を踏まえてロールプレーイングの実践 3.今後の看護実践での自己課題	
21	2			
22	2			
23	2	科目試験		

使用テキスト:e系統看護学講座　看護管理、臨床看護学総論、代謝・内分泌　医学書院
参考資料:

評価方法:筆記試験・演習課題

専門分野					
科　目　名				担　当　講　師	
74.看護の統合と実践Ⅲ （看護の追求）				船岡未恵　看護師14年	
年次	時期	時間数・回数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
3	全通	30時間・15回	1		講義・演習
DPとの関連	8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む 9.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる				
科目目的	研究の基本的知識・態度を学び、看護を多角的視点から深く考察することで、よりよい看護実践をめざし、質の高い看護をつい看護を追求する能力を養う。				
科目目標	1.看護研究とは何かを学び、看護実践における意義と目的が理解できる 2.ケーススタディとは何かを学び、自分の行った看護の体験を分析し、看護を深く考察する				
事前学修	1.担当講師より提示された事前学修				

回数	時間	授業内容		担当者
1	2	研究の種類基本的知識	1.看護研究とは　2.専門職と看護研究 3.看護研究と倫理的配慮　4.研究テーマの発見の仕方	船岡
2	2	ケーススタディの基本的知識	1.ケーススタディとは 2.ケーススタディの目的・意義	
3	2	研究（ケーススタディ）の種類	1.実験研究　2.調査研究 3.質的研究（事例研究）　4.文献検索	
4	2	ケーススタディの実際	1.テーマを確定し計画書の作成をする	
5	2		2.演習（事例のまとめ） 教員による個別指導	
6	2			
7	2			
8	2			
9	2		3.演習（個別指導） 受け持ち担当教員による	
10	2	学会	学会参加	
11	2	論文提出	論文構成に従ってまとめる	
12	2	論文作成	論文構成に従ってまとめる（個別指導）	
13	2			
14	2	ポスターセッション	発表	
15	2			

使用テキスト：e系統看護学講座　看護研究　医学書院
参考資料

評価方法：論文評価　（最終提出期限を守らない場合は評価対象にならない）
学会参加・及び学びレポート　研究計画書と論文の提出